



第136号

# Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第115回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第116回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第121回出題

結果発表

- ・ 第114回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第118回解答
- ・ 推理将棋第119回解答

読み物

- ・ 第2回神無太郎の氾濫 出題編



2019/10

## はじめに

---

### 脱出

毎年 10 月 16～18 日は四国三大祭の 1 つ新居浜太鼓祭が行われます。いつも 10 月号はその話題を巻頭で触れるのですが、今年はその祭り休み（市内のほとんどの企業はお休みになります）を利用して 1 泊 2 日で湯布院に行ってきました。某球団（今年はダメでしたね）の選手もシーズン終了後湯治に毎年行きますので是非行きたいと思っていた場所です。

愛媛県の八幡浜（七郎さんの故郷）からフェリーで別府（近いと思っていたら 3 時間かかる）へ行き、半日ほど地獄巡り（何十年ぶりだろう）して湯布院へ（別府から 1 時間）

美味しい食事を食べ、宿の前が湯の坪街道という商店街でお土産やいろいろ楽しめる店がずらりとあり散策も充実、お風呂も湯布院温泉でリラックスでき充実した時間を過ごしました。新居浜に帰って 3 日目の祭りを楽しもうと思っておりましたが大雨でこちらは消化不良でした。

湯布院よいとこ是非訪ねてみられてはいかがでしょうか？



（八幡浜の道の駅にあるみかん色のポスト）



（半分より奥が青い？血の池地獄）

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも 4 コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト 10、自己紹介、何でも OK です。

### 感想

第 136 号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : [takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

協力いただいている方々の HP アドレス  
\*ご協力感謝します

### 妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

### Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

### フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

### 占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>



なる概念を同列に扱う普通詰将棋の流儀を、不用意にフェアリーに持ち込んだことで、多くの問題が引き起こされたのです。

### 3. 省略時解釈とルール適用範囲の局所化

もちろん、フェアリーはルール自体に矛盾や曖昧さがなければ、どんなルールでも自由です。上述の「すかし詰禁止」も「フェアリーランドでは」そういう作品は扱わない」という宣言に過ぎません。例えばミニコミ誌「将」では、その宣言の後も「すかし詰可」のばか詰を扱っていました。f mで「すかし詰可」のばか詰に「将ばか詰」や「将協力詰」という名称が付けられているのはそのためです。

なお、WFP 作品展では「省略時(デフォルト)解釈」方式を採用しています。例えば無駄合に関しては「無駄合概念なし」が省略時解釈なので、「すかし詰」の作品を出題する場合は、その旨の注釈を付けて出題します。

この方式は注釈によるネタバレを避けたい作者にとっては不都合かもしれませんが、解答者はルール解釈で迷う必要がなくなり、安心して解図に取り組むことができます。

また、この方式は人によって採否が分かれる微妙なルールの適用をその作品だけに「局所化」できる利点もあります。即ち、ある作品で定めたルール解釈の副作用で、他の作品が不完全作になることを防げるのです。

ルール適用範囲の局所化は、多様で、時として相反するルールが並存する現代のフェアリーには必須の概念だと思います。

### 4. そのルールで本当に大丈夫？

今回は「すかし詰」を巡る歴史を簡単に振り返りましたが、ここから普通詰将棋で使われているルールを無批判にフェアリーに取り入れるべきではない、という教訓を読み取れます。

これは詰将棋が将棋のルールをすべて取り入れていると同様です。例えば将棋の「入玉」に関する規定は詰将棋では完全に無視されています。そもそも単玉問題では玉の片方が存在しません。

フェアリーで疑義が生じやすいルールは他にもあります。「行き所のない駒」「二歩」「打歩詰」「千日手」等々、枚挙にいとまがありません。

これから新しいルールを提唱しようという方は、アイデアの披露を急ぐ前に、ルール上の

問題が起こらないか、十分に検討してください。「それ以外は普通詰将棋と同じ」の一言で済まず誘惑を抑え、「本当に大丈夫だろうか？」と丁寧に確認することが大切です。

さて、そろそろ今回の WFP 作品展の紹介に移りましょう。今回は第 115 回の再掲載分と第 116 回の新規出題です。第 116 回は出題数が再び二桁に戻り、ルールを見ただけでも難しそうな問題があると思います。ただし、見た目と難易度は必ずしも一致しません。以下の補足説明などを参考に、解図に挑戦してください。

#### 〔第 115 回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第 115 回の出題は全 9 題。2 問セットの問題が 2 つあるので実質 11 題です。内訳は占魚亭氏 3 題、神無太郎氏 3 題、変寝夢氏 2 題(実質 3 題)、はなさかしろう氏 1 題(実質 2 題)です。今回は WFP 作品展初登場のルールがないので、比較的解き易いのではないかと思います。できれば全問正解を狙ってみてください。

**115-1~115-3** は占魚亭氏の All-in-Shogi の協力自玉スタイルメイトです。どれもスタイルメイトの典型的な最終形ですが、All-in-Shogi なので、その形に至る手順が通常とは異なります。

**115-4~115-6** は神無太郎氏の点鏡作品。氏は「第 1 回神無太郎の氾濫」で点鏡作品の特集を行っているので、それも参考にしてください。点鏡はまだまだ目新しいルールで、新手筋もどんどん出てくるでしょう。裸玉といえども油断は禁物ですよ。

**115-7** 及び **115-8** は変寝夢氏の作品。いずれも受方持駒制限があります。

**115-7** はリパブリカンと中立駒の組み合わせ。中立駒は詰ませにくい駒ですが、その分、詰型の想定もしやすいと思います。中立銀の位置だけを変えたツインになっているので、一方が解ければ、それがもう一方のヒントになります。

**115-8** は前回に引き続き「駒全マネ禁」の作品。本局では角が複数あるので、これを上手く使ってください。

**115-9** は、はなさかしろう氏による推理将棋仕立ての最短手数探索問題。前回の続編です。今回は連続王手の回数が少ない方の出題で、特に  $n=2$  の場合は、「王手に対する逆王手で詰んだ」という条件の付いた普通の推理将棋を解く感覚で解けるとと思います。

なお、これは最短手数探索問題も兼ねているので、 $n=2$  の場合は 13 手以下、 $n=11$  の場合は 27 手以下の解を見つけられれば、それだけで正解になります。ぜひ作者の読みを上回る解答をお寄せください。

**(※追記)**

**115-9 問 1( $n=2$ )** に 11 手の早詰がありました。14 手の推理将棋としても余詰が成立しています。不詰ではないので解答募集は継続し、14 手ですべての条件を満たす解、または 13 手以下で条件①を満たす解はすべて正解とします。

**〔第 116 回作品展各題への補足説明〕**

第 116 回の出題は全 12 題。ツインが 1 題あるので実質 13 題です。内訳は占魚亭氏 4 題、変寝夢氏 4 題 (実質 5 題)、一乗谷酔象氏 1 題、神無太郎氏 2 題、尾形充氏 1 題です。

Imitator 絡みの作品や、複数のルールを組み合わせた作品がありますが、頭をよく整理し、適切な方針を立てて解図に臨んでください。

**116-1～116-4** は占魚亭氏の実験的作品群。

「二玉詰」「中立駒」「Imitator」「All-in-Shogi」「点鏡」など、色々なルールの組み合わせが試されています。**116-1** は攻方の駒が 1 枚もありませんが大丈夫。受方の持駒は全部中立駒なので、「受先」の初手で発生させた駒を上手く使えば王手を掛けられます。それぞれの作品で、どのルールがどのように働くか、各ルールの相性は良いか悪いか……これらの作品を解いて皆さんもご自分で感じてみてください。

**116-5、116-6、116-11、116-12** は変寝夢氏の作品群。作稿の都合上、出題番号が離れてしまいましたが、ご了承ください。**116-5** と **116-6** は前回・前々回に引き続き「駒全マネ禁」の登場です。そろそろこのルールにも慣れましたでしょうか？ **116-6** は受方持駒制限があるので、解き易いと思います。**116-11** は Grasshopper と性能変化ルールの組み合わせ。難しそうに見えますが、実はごく一部を除いて手順はほぼ一本道です。**116-12** は中立駒入のレトロですが、これも受方持駒制限があるので、見た目よりは易しいはず。組局 (ツイン) になっているので、できるだけ両方解いてください。

**116-7** は一乗谷酔象氏の推理将棋。実戦初形から不動駒なしで詰む最短手順を求めよという問題です。推理将棋仕立てになっていますが、趣旨は最短手数探索なので、条件 1)2)だけを満

たした解を準正解として 1 点計上し、すべての条件を満たした解を完全な正解として 1 点加点します。

**116-8** 及び **116-9** は神無太郎氏の作品。元々は「第 51 回神無一族の氾濫」への投稿作でしたが、詰パラで出題するには難しすぎる (しかも詰パラ未登場の Imitator が使われている) ため、こちらに回して貰いました。もしかしたら今月の最難関かもしれません。

**116-10** は尾形充氏の最悪詰。今月唯一の対抗系ルールの作品です。前々回の最悪詰 (**114-6**) よりは易しいはずなので、それが解けなかった方も、ぜひ本作にチャレンジしてください。

**解答要項**

第 115 回分解答締切: 2019 年 11 月 15 日 (金)

第 116 回分解答締切: 2019 年 12 月 15 日 (日)

宛先: **k7ro.ts@gmail.com** (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

**作品投稿について**

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。) 宛先は解答と同じ **k7ro.ts@gmail.com** へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

**WFP 作品展: 年末年始の予定**

来年 1 月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP 作品展 12 月号の新規出題と来年 1 月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下ようになりますので、あらかじめご承知ください。

	11 月	12 月	1 月	2 月
第 116 回	再掲	結果		
第 117 回	出題	再掲	再掲	結果
第 118 回			出題	再掲
第 119 回				出題

## ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule112.pdf) があるので、それも参考にしてください。

### 【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打つてもいい。ただし、双方とも 1 手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(補足)

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる
- 3) 自玉を取らせる手は反則

→参照：WFP122 号「All-In-Shogi の紹介」

### 【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

### 【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

### 【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

### 【点鏡】

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

- ・行き所のない駒の禁則は適用されない

→本誌初出: 第 108 回 WFP 作品展(WFP127 号)

### 【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

### 【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手で

は玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。

- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

→参照：WFP92 号「リパブリカン詰の紹介」

### 【中立駒】(「」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61 号「中立駒の紹介」

### 【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

飛び越すことは可能。

3 2 1      例えば左図で、

			一
●	●	●	二
角	桂	香	三

12 香や 11 香成は不可。  
22 角や 11 角は不可。  
11 桂成や 31 桂成は可。

### 【駒全マネ禁】

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

- ・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手でしか詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する。また、直前の手が「成」だった場合、成る



前の駒種で判定する。

→参照：WFP132号「駒全マネ禁詰の紹介」

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【二玉詰】（または【多玉詰】）

複数の玉を使用する。

どの玉に対しても王手放置は禁手。

王手を外せなければ詰み。

→初出；第41回WFP作品展（WFP45号）

【受先】

受方から指し始める。

【Imitator】（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

（補足）

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・Imitatorは元の駒と同時に動く

→参照：WFP75号「Imitatorの紹介」

【最悪詰】

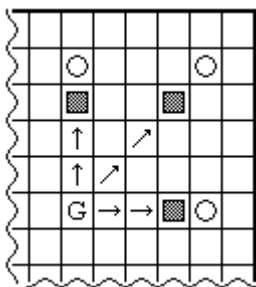
攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【Grasshopper】（G）

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



（○がGの利き）

（補足）

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

【レトロ -m+n 手】

m手逆算してn手で詰む手順を求める。

（補足）

- 1)特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2)協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数で逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。



<第 115 回>解答締切:2019 年 11 月 15 日(金)

■ 115-1 占魚亭氏作

All-in-Shogi協力自玉スタイルメイト 4 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
								王		七
										八
									王	九

持駒 角

■ 115-2 占魚亭氏作

All-in-Shogi協力自玉スタイルメイト 4 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
								王		七
										八
									王	九

持駒 飛

■ 115-3 占魚亭氏作

All-in-Shogi協力自玉スタイルメイト 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
								王		七
										八
									王	九

持駒 香

■ 115-4 神無太郎氏作

点鏡協力詰 5 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王						一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 香3

■ 115-5 神無太郎氏作

点鏡協力詰 11 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
									王	六
										七
										八
										九

持駒 歩3

■ 115-6 神無太郎氏作

点鏡協力詰 11 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
							王			三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 歩



■ 115-7 変寝夢氏作

a) リパブリカン協力白玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
			王	銀					四
									五
									六
									七
								飛	八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし  
※28飛及び44銀は中立駒

b) リパブリカン協力白玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
			王						四
									五
				銀					六
									七
								飛	八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし  
※28飛及び46銀は中立駒

■ 115-8 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				●					四
				馬					五
				歩	●	●			六
				●			王		七
					桂	飛			八
					角				九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし  
※●:石 (着手不可、不透過)

■ 115-9 はなさかしろう氏作

最短手数探索 (推理将棋)

各問の n について、最後の n 手が王手で詰む最短手数を求め、その手順を示してください。

問 1 n=2

- ① 先後通算 2 連続王手で詰み
- ② 総手数 14 手 (13、14 手目は王手)
- ③ 初手は飛
- ④ 成あり

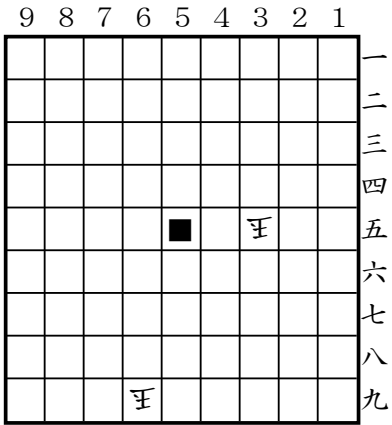
問 2 n=11

- ① 先後通算 11 連続王手で詰み
- ② 総手数 28 手 (18~28 手目は王手)
- ③ 3、6、14 手目も王手
- ④ 成なし
- ⑤ 棋譜表記に「左」がつく手があった
- ⑥ 18 手目は 54 角



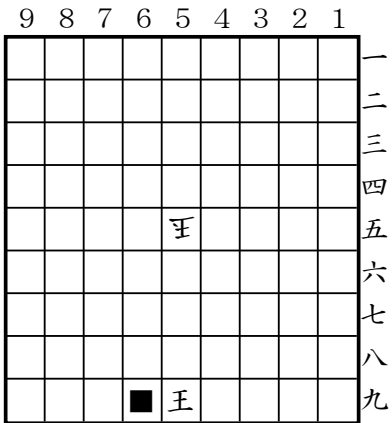
<第 116 回>解答締切:2019 年 12 月 15 日(日)

- 116-1 占魚亭氏作  
二玉協力詰 4 手 (受先)



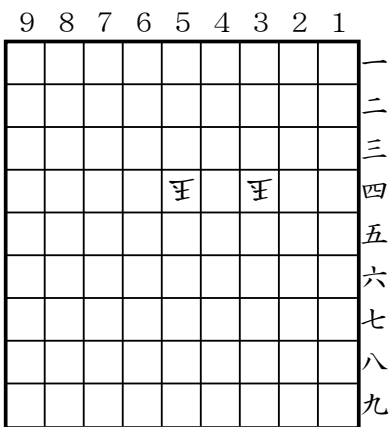
持駒 なし  
※■:Imitator  
玉以外はすべて中立駒

- 116-2 占魚亭氏作  
協力自玉詰 6 手



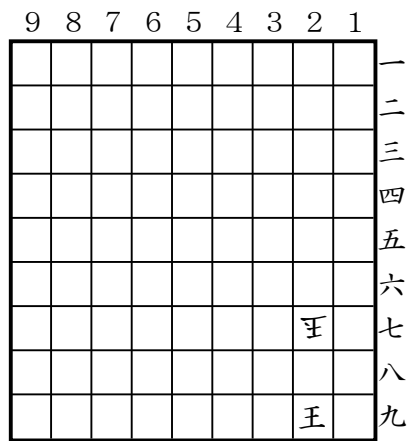
持駒 n香  
※■:Imitator  
玉以外はすべて中立駒

- 116-3 占魚亭氏作  
点鏡二玉協力詰 5 手



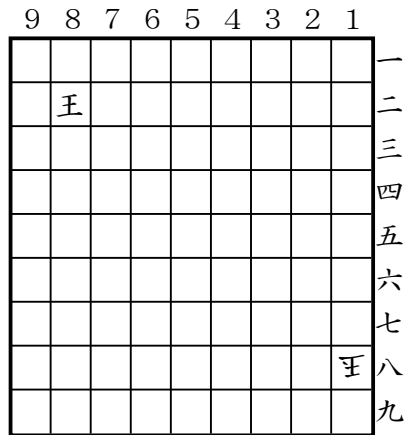
持駒 金2

- 116-4 占魚亭氏作  
点鏡All-in-Shogi  
協力自玉ステイルメイト 4 手



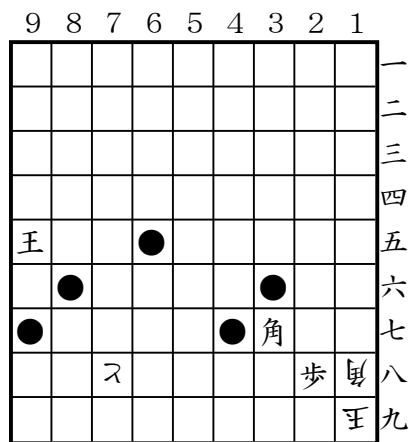
持駒 歩

- 116-5 変寝夢氏作  
駒全マネ禁協力自玉詰 8 手



持駒 金香

- 116-6 変寝夢氏作  
駒全マネ禁協力自玉詰 12 手



攻方持駒 なし  
受方持駒 なし  
※●:石 (着手不可、不透過)

■ 116-7 一乗谷酔象氏作

推理将棋『不動駒のない熱戦』

「34手目の初王手で詰まされちゃった。初手に歩を突かない作戦がまずかったかな」  
 「これが投了図か。盤上に不動駒が1枚もない！大熱戦だったね」  
 「この将棋、不成の手はなかったよ。こっちは金、玉、銀の順に続けて動かして困ったけどよくなかった。相手の金を寄る手がいい手だったな」  
 「玉の堅さに負けたんだね」  
 「相手は7回連続で馬を動かし、2回連続で桂を動かしてきた。巧くやられたよ」

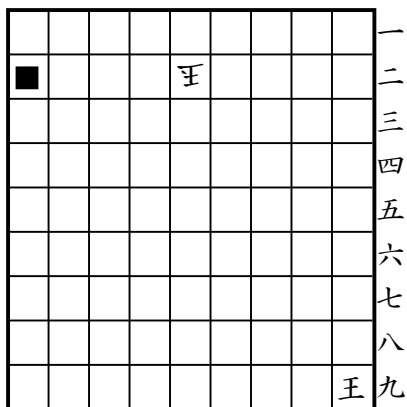
[条件]

- 1) 34手目の初王手で詰んだ
- 2) 終図盤面に不動駒はなかった
- 3) 初手は歩以外の駒を動かした
- 4) 先手は金、玉、銀の順に続けて動かした
- 5) 後手は金を寄った
- 6) 後手は7回連続で馬を動かした
- 7) 後手は2回連続で桂を動かした
- 8) 不成の手はなかった

■ 116-8 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n角

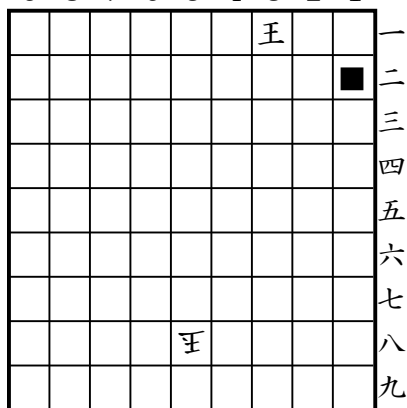
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 116-9 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n飛

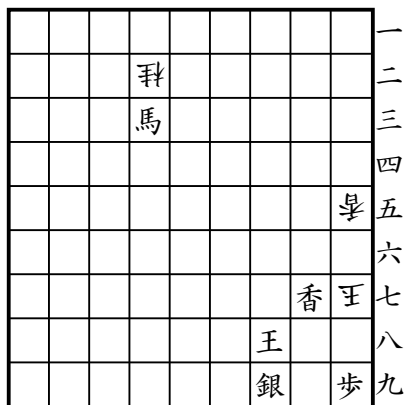
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 116-10 尾形充氏作

最悪詰17手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

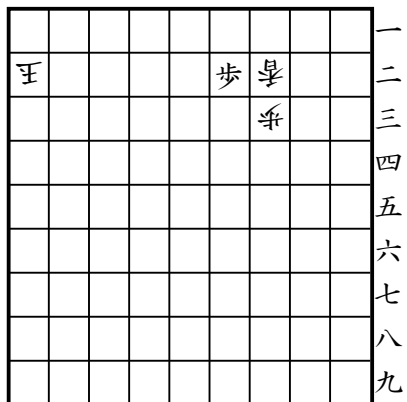


持駒 なし

■ 116-11 変寝夢氏作

対面協力詰21手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 G

※G:Grasshopper

■ 116-12 変寝夢氏作

a) レトロ協力詰 -4+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	皇	一
				角		科			二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 飛

※42角は中立駒

b) レトロ協力詰 -4+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王		一
				角		科			二
									三
					皇				四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 飛

※42角は中立駒

以上



## 推理将棋第121回出題 (10/17 修正)

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第119回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2019年11月10日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の題名は「推理将棋第121回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！ 1題でも解けたらぜひご解答ください。

\*\*\*\*\*

### 推理将棋第121回出題 担当 Pontamon

今回は在庫温存のために担当から2題出題です。前は難しかったとのことなので予定変更で中級を易問と入れ替えました。

初級は担当からの9手の易問。2回の同は別の駒でしょうか、同じ駒でしょうか。  
中級は担当からの10手詰の易問です。  
上級の12手詰は上谷直希さん作。大駒着手は後手の飛だけなので龍は動かさせません。

\*\*\*\*\*

#### ■本出題

##### 121-1 初級 Pontamon 作

トレッキー作の修正 9手

同が付く手を2連続で指すパターンを整理しよう。

##### 121-2 中級 Pontamon 作

51角がある10手 10手

51角はどちらの着手なのかはすぐに分かるはず。急がば回れ。

##### 121-3 上級 上谷直希 作

飛車の遅速 12手

後手の飛が成るために邪魔な歩を消す手順を考えましょう。

\*\*\*\*\*

##### 121-1 初級 Pontamon 作

トレッキー作の修正 9手

「投稿作の条件は問題ないけどトレッキー丸出しの会話は変更してよ」

「『トランスワープでボーグキューブが突然現れた』は削除」

「わかった」

「『セブン・オブ・ナインが同化』は『9手詰みの7手目が同か！』」

「なるほど」

「『シールドを上げたか。抵抗は無意味だ。同化する』は『8手目は駒を直進させて粘ったけど、詰まされた手も同か！』」

「了解、亜空間通信終了。エンゲージ！」

「君もトレッキー？」

(条件) ・9手で詰み

・7手目と9手目は同の手

・8手目は駒を直進

\*\*\*\*\*

##### 121-2 中級 Pontamon 作

51角がある10手 10手

「不成なく10手で詰んだ棋譜だよ」

「51角の着手があったんだね」

(条件)

・10手で詰み

・51角の着手があった

・不成なし

\*\*\*\*\*

##### 121-3 上級 上谷直希 作

飛車の遅速 12手

「12手で詰ませたよ。動いた大駒は僕の飛車だけだったかな。僕の歩は5手目に取られたけど、僕が初めて歩を取ったのは10手目で、それは飛成の手だったよ。ただ、成駒で王手を掛けている局面は登場しないまま終局したんだ」

(条件)

・12手で詰み

・動いた大駒は後手の飛車のみ

・5手目は歩取り

・10手目は飛成で、後手にとって初めての歩取り

・成駒で王手している局面はなかった

(10/17 修正)

# 第114回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第 114 回 WFP 作品展の結果を報告します。

今回の出題は全 10 題（2 問セットの問題や複数解を求める作品を含むので実質 12 題）。解答者数は 8 名。全題正解者なし。解答の内訳は以下の通りです。

## 〔第 114 回 WFP 作品展成績〕（敬称略）

○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3 <sub>1</sub>	3 <sub>2</sub>	4	5a	5b	6	7	8	9	10	計
たくぼん	○	○	-	-	○	○	○	○	-	○	○	○	9
占魚亭	○	○	-	-	○	-	-	-	-	○	○	○	6
はなさかしろう	-	-	○	○	○	-	-	-	○	○	○	-	6
一乗谷酔象	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	○	○	5
縫田光司	-	-	-	-	○	-	-	○	○	○	○	-	5
くろうさぎ	-	-	-	-	○	-	-	○	○	○	×	-	4
変寝夢	-	-	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-	4
暇人 EX	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	1

ご覧の通り○の密度が少なく、解答者諸氏の苦戦が伺える結果です。114-3 は作者以外の正解者がゼロとなってしまいました。解答者から再挑戦したいとの要望も上がらなかったのも、このまま解答を発表したいと思います。

逆に解答者全員正解となったのが 114-3。透明駒もルール提唱から 10 年が経ち、愛好家による普及の努力もあって、かなりポピュラーになった結果でしょう。

### ■ 114-1 占魚亭氏作（正解 2 名 ※実質 1 名！）

協力自玉詰 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			■				王		五
									六
									七
								王	八
									九

持駒 n 香

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

## 【ルール】

### • 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

### • Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

（補足）

• 駒を打ったときは動かない。

• Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75 号「Imitator の紹介」

### • 中立駒（「區」あるいは「n 駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
  - 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
  - 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
  - 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
  - 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
  - 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
  - 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。
- 参照：WFP61 号「中立駒の紹介」

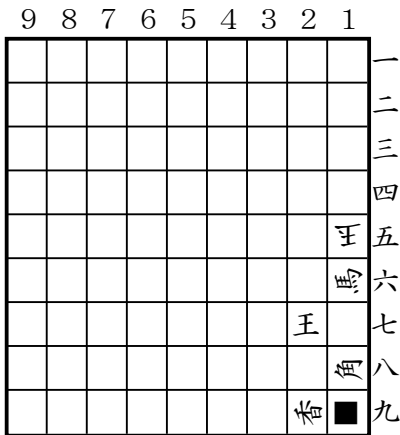
## 【解答】

29n 香 61n 角 27 王 [I74] 15 玉 [I64]

16n 角成 [I19] 18n 角 まで 6 手



(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

n 角と Imitator の大移動が狙い。

王・玉の着手があるので、難しいかも知れません。

【解説】

一般に協力自玉詰では攻方玉が盤端にある方が詰ませやすいものです。ところが本局はせっかく盤端に攻方玉があるのに、わざわざ盤の内側に移す作品です。

こんな手順が成立するタネは Imitator の利用。攻方玉が盤端から離れる代わりに、Imitator を盤隅に移し、自らの動きを制限するという仕掛けです。

具体的に手順を追ってみましょう。

初手 29n 香は限定打。Imitator の移動の邪魔にならない限定打であり、最終手で攻方玉が 37 に逃げる手も防いでいます。

その後も盲点になり易い手が続きます。

2 手目 61n 角は受方が自玉へ王手を掛ける受けに見えますし、5 手目 16n 角成[I19]はまるで攻方が自玉への王手を掛けているように見えます。もちろん Imitator の効果でこれらは反則手になっていません。従って、詰上りは両王手ではありません。18n 角の単独王手です。中立駒王手は防がれやすいですが、盤隅の Imitator が攻方玉の動きを強力に制限しているだけでなく、中立角を逃がす受けも防いでいます。

本局は「Imitator は盤隅へ」の格言がずばりと当てはまる作品ですね。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

詰め上がり 1 6 n 馬はなくてもいいんですね。隅の imitator が窮屈そうですね。

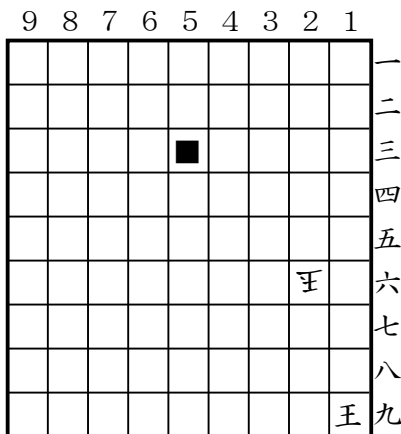
たくぼんさん

駒を動かしていたら詰上りを発見。

■を隅にはポイントなのか。

■ 114-2 占魚亭氏作 (正解 2 名 ※実質 1 名!)

協力自玉詰 6 手



持駒 n 香

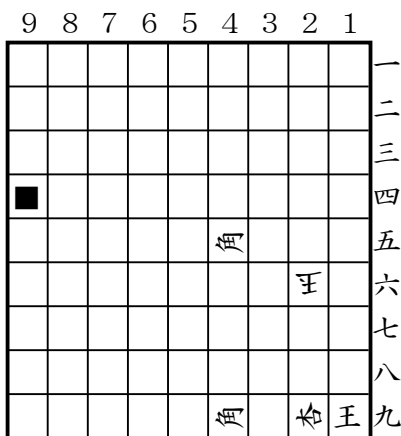
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

【解答】

28n 香 27n 角 49n 角[I75] 27n 角打 45n 角[I93] 29n 香成[I94] まで 6 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

n 角の着手 (27~49、27~45) が狙い。神無太郎氏風の手順?

【解説】

前局と似た構図ですが、手順構成はがらりと変わります。攻方玉はあくまで不動（ついでに受方玉も不動）で、あくまで詰めやすい位置で詰めます。

ただ、いくら盤隅の玉が詰め易いといっても、使える駒は中立駒しかありません。詰めにくい中立駒でどうやって、自玉を詰めれば良いのでしょうか？

答えはもちろん Imitator の利用です。今度は「Imitator は盤端へ」。盤隅ほどではありませんが、盤端に持ってきた Imitator は駒の動きを大きく制限できます。本局の場合は、Imitator を 9 筋に運べば、玉を 1 筋に閉じ込められるので、詰めにくい中立駒でも自玉を詰められるというわけです。

初手中立香で合駒を請求しますが、これに対し、受方は中立角 2 枚を合駒に使い、攻方は開き王手で王手を続けます。この繰返しは主に Imitator を 9 筋に運ぶのが目的です（中立角のうち 1 枚は 18 地点に利かす働きもあります）。

この開き王手の順番は逆にできません。3 手目 45n 角だと Imitator が一段目に来てしまい、王手にならないからです。

Imitator の 9 筋への運搬が成功したら、最終手に中立香を成って詰み。ここで初手 28n 香の限定打の意味が分かります。Imitator が 9 筋にいることにより、19 玉だけでなく 29n 杏も動かさないのは、前局で 18n 角が動けなかったのと似ていますね。

なお、作者が「神無太郎氏風の手順」とコメントしているのは、「第 47 回神無一族の氾濫」の第 5 番 ([http://k7ro.sakura.ne.jp/overflow/hr47\\_r.pdf](http://k7ro.sakura.ne.jp/overflow/hr47_r.pdf)) のことかもしれません。

この作品は「擬似すかし詰」を実現した作品ですが、中立香の王手に対し中立角を合駒し、それを直後に開き王手で動かす手順の繰返しは、確かに共通する雰囲気醸し出していますね。

#### 【短評】

変寝夢さん（※無解）

imitator 入り協力自玉の場合、imitator の行動範囲を減らす方がいいのかも。

たくぼんさん

2 枚の角移動の対比が美しい。

## ■ 114-3 はなさかしろう氏作 (正解 1 名 ※実質正解者なし)

### 最短手数探索（推理将棋）

各問の n について、最後の n 手が王手で詰む最短手数を求め、その手順を示してください。

#### 問 1 n=29（※早詰 54 手）

- ① 先後通算 29 連続王手で詰み
- ② 総手数 55 手（27～55 手目は王手）
- ③ すべての筋に着手があった
- ④ 桂の手は 10 手目と 23 手目と 54 手目のみ
- ⑤ 銀の手は 5 回全てが棋譜に「打」のつかない手だった（味方銀の利きへの銀打はなかった）
- ⑥ 成る手は 36 手目と 45 手目と 55 手目のみ

#### 問 2 n=39

- ① 先後通算 39 連続王手で詰み
- ② 総手数 74 手（36～74 手目は王手）
- ③ 成は 7、53、54、58、66、74 手目のみ
- ④ 棋譜表記「打」（味方同種駒への利きへの駒打）は 28、62 手目のみ
- ⑤ 飛が前に進む手はなかった
- ⑥ 19 手目と 30 手目は 55 桂
- ⑦ 角の腹への金の手と金の腹への金の手があった
- ⑧ 相手が駒を打った直後の手では、必ず盤上にある「走ったり跳んだりできる駒」（飛龍角馬桂香のいずれか）の着手をした（※ 必ずしも走ったりせず、隣のマスへの着手でも良いが、打つのは不可）
- ⑨ 先手玉は居玉のまま不動
- ⑩ 歩の手は初手と 15 手目のみ

#### 【ルール】

##### • 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

#### 【解答】

#### 問 1 n=29

78 飛 34 歩 68 玉 77 角生 同玉 74 歩  
86 玉 75 歩 11 角生 33 桂 75 玉 64 歩  
同玉 62 飛 53 玉 67 飛生 72 飛生 69 飛生  
42 飛生 49 飛生 33 角生 39 飛生 44 桂 29 飛生  
56 香 79 飛生 95 角 62 銀 同飛生 42 金打  
同飛生 62 銀 同飛生 42 金打 同飛生 73 飛成  
同角生 62 銀 同角生 同金 同飛生 42 角

同角生 同金 同飛成 同銀 64 玉 55 角  
 同香 54 飛 同香 53 銀 同香生 52 桂  
 同香成 まで 55 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科			王					一
				杏					二
歩	歩			歩	歩	歩	歩	歩	三
			玉	桂	歩				四
									五
									六
歩	歩			歩	歩	歩	歩	歩	七
									八
香	桂							香	九

持駒 飛2 角2 金4 銀4 桂 歩3

**[早詰解] 54 手**

76 歩 42 玉 33 角生 同玉 36 歩 24 玉  
 35 歩 同玉 46 歩 同玉 48 飛 57 玉  
 43 飛生 99 角生 41 飛生 42 飛 61 飛生 48 飛生  
 71 飛生 54 香 31 飛生 37 角 77 桂 92 香  
 66 歩 77 角生 68 銀 同飛生 48 銀 同飛生  
 68 銀 同飛生 48 金 同飛生 68 銀 同飛生  
 48 金 同飛生 68 金打 同角生 同金 同飛生  
 37 飛成 47 桂 同龍 66 玉 55 角 同香  
 56 龍 同香 57 角 同香生 58 桂 同飛成  
 まで 54 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	科						科	皇	一
皇									二
歩	歩	歩	歩	歩			歩	歩	三
									四
									五
		歩	王						六
歩	歩			皇			歩	歩	七
				龍					八
				玉			桂	香	九

持駒 歩2

**問 2 n=39**

76 歩 42 飛 33 角生 52 玉 42 角生 99 角生  
 31 角成 54 香 88 飛 同角生 21 馬 68 飛  
 43 馬 同玉 46 歩 28 角 77 桂 44 玉  
 55 桂 77 角生 38 金 55 玉 51 飛 19 角生

61 飛生 46 玉 71 飛生 56 香打 81 飛生 55 桂  
 91 飛生 35 桂 41 飛生 57 玉 49 香 37 角生  
 48 銀 同飛生 68 金 同飛生 48 銀 同飛生  
 68 金 同飛生 48 銀 同飛生 68 金 同角生  
 同銀 同飛生 48 角 同角生 同飛成 同飛成  
 同金 46 玉 58 桂 同香成 同金 48 金  
 同香 47 桂打 同香 同桂左生 同金 同桂成  
 55 角 同香 56 飛 同香 57 金 同香生  
 58 桂 同香成 まで 74 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
									二
歩	歩	歩	歩	歩			歩	歩	三
									四
									五
		歩		王					六
歩	歩		歩	手		歩	歩		七
				皇					八
				玉			桂		九

持駒 桂 香 歩2

**【作者のコメント】**

《出題の狙い》

第 111 回 WFP 作品展の推理将棋、逆王手詰へのオマージュです。なお、最後の n 手が王手、というのは n が 2 以上で先後通算の n 連続王手での詰み、n が 3 以上で (n-1) 連続逆王手での詰み、とも言い換えられますが、n=1 を含めたいので本問ではこのような言い方にしています。

長手数 of 推理将棋は条件が多くなりがちで、全てを合致させる作業が負担になりますので、最短手数探索問題にしました。一方で推理将棋の条件は作意へのヒントでもありますので、通常の推理将棋としても解けるように作意解を付帯条件で限定しています。

n 連続王手詰の最短手数 P を n の関数と見て P(n) と記します。n の最小値は 1 で P(1)=7、というのは推理将棋では基本なので、例題にしました。n の最大値は今のところ 62 でしょうか。WFP111-9 の解説にある 62 連続王手の図は最終局面が詰みになりませんので、n=62 には解がない可能性はありますが…。

今回の出題の狙いは P(n) の大まかな形を把握することにあります。推理将棋で面白い問題

が作れるかどうかは  $n$  に特異性があるかということと関係があるのではないかと推測しました。つまり、 $n$  が大きくなれば  $P(n)$  も大きくなると予想されますが、 $P(n) - P(n-1)$  あるいは  $P(n+1) - P(n)$  が大きい値になる場合に、 $n$  には特異性があり、面白い推理将棋問題を作りやすいのでは、と考えた次第です。

ところで、WFP111-10 は  $n=2$  と見せて実は  $n=3$  という問題で、趣向を凝らした作意手順でしたが、手数が 19 手と  $n=3$  にしても長いので、推理将棋としては限定が大変なのだろうと思います。そして、その分、解図も大変になります。主条件への冗長性を無くすことで取り組みやすい問題にできるのではないかと、との考えから、最短手数探索を長編推理将棋のひとつのあり方として推したいと思っております。

さて、WFP111-9 は  $n=29$  で総手数 60 手と、大掛かりながら効率の良い方法で連続王手をかけていることが明らかです。付帯条件を一旦外して最短手数を追求し、55 手の手順を見つけましたので、問 1 とします。これを更に敷衍すると同様の形で  $n$  を 39 まで増やすことができますので、問 2 にしました。問 1 と問 2 は基本的に同じ詰形ですが、いかにして  $n$  を増やすかということを楽しんでいただけたらと思っております。

実は  $n$  連続王手詰については、 $n=2, 6, 11, 12$  についても自分なりに検討しているのですが、一度に出題するとボリュームがありすぎるので、今回は長手数側の  $n=29$  と 39 に限って出題してみました。長手数を先に投稿するのは WFP111-9 への解答発表に合わせたいと思ったためです。WFP111-9 は両王手の謎や事前準備中の王手禁止などの複合要素もさることながら、 $n=29$  に注目し、問題として切り出したことが意義深いと思います。と言いますのは、収束部の連続王手数の総手数に対する割合  $n/P(n) \times 100$  をパラメータ「連続王手詰効率」とすると、このパラメータは  $n=29$  で極大値になるのではないかと推測しているためです。今のところ私が追求した限りでの連続王手詰効率の値を以下に示します。

$n=1, P=7 \quad n/P \times 100 = 14.29\%$   
 $n=2, P=14 \quad n/P \times 100 = 14.29\%$   
 $n=6, P=21 \quad n/P \times 100 = 28.57\%$   
 $n=11, P=28 \quad n/P \times 100 = 39.29\%$

$n=12, P=30 \quad n/P \times 100 = 40.00\%$   
 $n=29, P=55 \quad n/P \times 100 = 52.73\%$   
 $n=39, P=74 \quad n/P \times 100 = 52.70\%$

このように、 $n=1$  で 14.29% だった値が  $n$  の増加に伴って増加し、 $n=29$  では 52.73% と 50% を超えているのですが、 $n=39$  では微減しています。そして、おそらくはこれより大きな  $n$  では準備に必要な手数が大幅に増えてしまい、連続王手詰効率は小さくなってしまっているのではないかと思います。連続王手詰効率が 50% を超えているあたりでは、連続王手の長さ  $n$  を 1 手多くするために準備にかかる手数 ( $P-n$ ) の増分は 1 手未満になっているわけで、WFP111-9 で  $n=29$  を切り取った一乗谷酔象さんの眼力の素晴らしさを今回改めて再認識しました。

なお、今回の「長手数側」というのは、 $n=29$  を頂点としてそれよりも長手数の側、という意味です。「短手数側」の  $n=2, 6, 11, 12$  については次回の出題にしたいと思っております。

#### 【解説】

WFP111-9 (一乗谷酔象氏作) は、実戦初形から始め、先後双方合わせて 29 連続王手で詰む手順を求めよという作品でした。作意は 60 手だったのですが、58 手で実現する手順を示したのが、はなさかしろう氏でした。

氏はさらに研究を続け、55 手で 29 連続王手を実現する手順を発見しました。それが今回出題した「問 1  $n=29$ 」です。

ただ、これは WFP111-9 の作意解が発表される前の成果でした。WFP111-9 の作意発表後、その手順を一部取り入れることにより、更なる短縮が可能だということに作者自身が気づきました。それが今回の結果稿で紹介した 54 手解です。結果論になりますが、本作は慎重を期して WFP111-9 の作意発表を待ってから出題した方が良かったですね。

ところで、WFP111-9 を解いた、あるいは鑑賞した方は一つ疑問を持ったと思います。それは「なぜ 29 連続王手なのか」ということです。

29 あたりで連続王手に備えるための手数と、実際の連続王手の手数がほぼ一致し、バランスが良くなるからだろうという仮説は立てられるのですが、本当にそうかは分かりません。

そこで作者は体系的研究に乗り出しました。その一つが「39連続王手」の研究であり、今回出題された「問2 n=39」です。

この作ではたった74手で39連続王手を生み出しているのですが、驚くべきはこの連続王手に「と金」をまったく使っていないことです。代わりに桂香を並べて、縦型の連続王手機構を二重化することで、連続王手の回数を稼いでいます。これはこの分野における技術革新と言っても良いでしょう。

作者はnが小さい場合の研究も行っていて、n=2, 11が第115回作品展で出題されています。n=2については早詰解が存在することが判明していますが、できれば皆さんもご自力で解を見つけてください。

この体系的研究から導かれた結論は、「最小の準備で最大の連続王手ができるのは、29連続王手である」というものでした。作者はこれを「連続王手詰効率」と呼んでおり、この値が最も高いのが29連続王手だったというわけです。n=29における「連続王手詰効率」の数値自体は、54手解の発見により変わってしまったわけですが、29連続王手が最も効率が良いという結論は、今のところ変わりません。

一乗谷酔象氏が同様の試行を経て「29連続王手」を選んだかどうか分かりませんが、仮に直感でこれを選んだのだとしたら、優れた「大局観」だったと思います。

本作のような「研究物」は、通常の「出題&解答」のサイクルには不向きな面もあります。同じような機構や、同じような手順が続くと解答者も飽きてしまうからです。しかも、機械検討が使えない場合、探索結果が間違っているおそれもあります（実際今回はn=29で、115回はn=2で早詰を生じました）。

逆に、大量の同種の解の中に、ぽつんと特異な解が突然現れると、それは大きな価値があります。こうした絨毯爆撃的手法は、作業が大変な割に報われないことが多いですが、あるののか分からない隠れた宝石を探すことには、ロマンを感じますね。

#### 【短評】

はなさかしろうさん

本問はWFP作品展111-9の解答発表前にチャレンジで出題したのですが、桂の逆王手（54手解の△47桂）が見えていませんでした。こちらを採用すると準備が2手短くなるのですが、手順が組めず後手に1手待機が入ってしまい、消せませんでした。

n=39ではこの逆王手はできないと思っています。ともあれ、111-9の設問である連続29回というのが絶妙で、それよりも連続回数が多くても少なくとも準備の効率が悪くなってしまうようです。

#### 一乗谷酔象さん（※無解）

解きたかったが時間がない。

29連続王手に至る最短手数 of 更新は驚き。  
111-9を出題した甲斐があった。

☆本作は残念ながら両題とも正解者なしとなりました。再出題は行いませんが、もし手数短縮に成功したら、ぜひお知らせください。



■ 114-4 変寝夢氏作（正解 8 名）

協力自玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								香	王	一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 飛香

※透明駒：攻方 0 枚、受方 2 枚

【ルール】

•透明駒

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83 号「透明駒の紹介」

【解答】（※判明した透明駒を括弧内に記述）

99 香 同 X 22 飛(92 玉) 同 X(22 馬)

まで 4 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								香	王	一
王								香		二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

【作者のコメント】

角生の可能性を消すための遠打が狙い。透明駒使用時の棋譜表記で、

判明した駒と判明した後の透明駒の数は、確定した時点できちんとしなきゃいけないなと思

いました（特に最終手で判明する 9 2 玉）。

例えば作者は 4 手目で確定したと思った透明駒が、実は 2 手目で判明していたため不完全作になるといったケースがあるように思います。

【解説】

解説に入る前に、まず棋譜の書き方から。

作者の提言にあるように判明した透明駒は、判明した時点で棋譜に書き入れてみました。

枚数については、本局では受方 2 枚しか透明駒がないので、管理が容易とみなして省略しています。

また、駒を取る手を「+」で表すのは慣習的にそうになっているだけらしいので、上記の棋譜では単に「同」で表しています。将棋の棋譜表記では、行き先に駒があれば駒取りなので、特別な表記は不要でしょう。

透明駒の棋譜表記については、確定した情報を加えるだけでなく、部分的に判明した情報を加える流儀も考えられます。本作品展でもいろいろ試してみますが、もし良い案があったらご提案をお願いします。

それでは解説に移りましょう。

まず協力自玉詰というルールから、受方の 2 枚の透明駒のうち 1 枚は最初から玉と判明しています。ただしこの時点では位置が分からないので、透明性は失っていません。

初手 99 香が重要な一打。これで玉が 9 筋にすることが判明します。受方はこの香を取りますが、取ったのが玉であれ、もう一枚の透明駒であれ、玉が 9 筋にいることは変わりません。続く 22 飛で 92 玉が確定します。

受方はこれも透明駒で取り、もう一枚の透明駒が 99 から 22 に動ける駒だったことが分かります。これができるのは角か馬だけですが、角だと初手の 99 香を取った角が最初から攻方玉に王手を掛けていることになり、初手が反則になってしまいます。馬なら初形 89 馬が 89→99→22 の軌跡を辿って、すべての着手を合法手にすることができます。

これで作意が詰むことは分かりましたが、紛れはどうでしょう？

初手 77 香で作意と同様に進めてみましょう。

77 香 同 X 22 飛(72 玉) 同 X まで 4 手？



これは最終手に対し 12 玉として透明駒が 22 角だと主張されて不詰となります。初形で角が 88 や 99 に居て、最後まで生角のまま動いたとしても、上記手順が成立してしまうわけです。つまり初手は「これより左に駒が置けない」という盤端の特別な性質を利用する限定打だったのです。

ただ、本局には類似手順の前例がありました。2013 年に Twitter (2013 年 8 月 21 日 / [https://twitter.com/r\\_sacka/status/370155444083236864](https://twitter.com/r_sacka/status/370155444083236864)) で発表された宮原航氏の作品です (占魚亭氏からご教示をいただきました)。この作品は「透明駒はじめてガイド」(<http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-136.html>) でも紹介されているので、ご参照ください。

盤隅の再遠打で角ではなく馬であることを確定させるという手筋自体は前例がありましたが、配置の洗練度は本局の方が優っています。受方玉が透明駒であることも本局のセールスポイントですね。

【短評】

はなさかしろうさん

初形の透明駒が 89 馬、92 玉だったことが証明できる、分かりやすく嬉しい一問でした。

占魚亭さん

宮原氏作の筋ですね。

たくぼんさん

宮原作と同じ狙いですね。形はこちらに軍配。

縫田光司さん

詰み形が思い付かずにかかなり苦労しましたが、こうすれば透明駒が成駒であることを証明できるのですね。面白かったです。

一乗谷酔象さん

92 玉でないと詰まないわけか。

■ 114-5 変寝夢氏作 (正解 2 名 ※実質 1 名!)  
駒全マネ禁協力白玉詰 6 手 (※2 解)

			飛						一
					王		香		二
			飛						三
									四
			桂		桂				五
									六
									七
			王						八
						香			九

持駒 なし

【ルール】

• 駒全マネ禁

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

- 直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手でしか詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。
- 成駒と生駒は別種の駒として区別する。また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

→参照：WFP132 号「駒全マネ禁詰の紹介」

【解答】

- a) 43 桂左成 69 飛生 52 圭 39 飛生 43 桂成 31 飛成 まで 6 手  
b) 63 桂成 31 飛 43 桂成 39 飛生 52 圭左 31 飛成 まで 6 手

(詰上り)

							王			一
			圭	王			香		二	
			飛	圭					三	
									四	
									五	
									六	
									七	
			王						八	
									九	

持駒 なし

【作者のコメント】

5 5 桂がどちらに移動するかで後手飛車の3 9 へのルートが変わるのが狙いです。

【解説】

駒全マネ禁という新ルールのお披露目です。その特徴が最初に現れるのが、王手放置に見える2手目。飛で王手されていますが、飛を動かすことで、「マネ禁」が適用され、飛の王手を受けることができます。攻方は飛以外の駒を動かして、飛の王手を有効化しますが、受方は再び飛を動かします。この繰返しで局面が進展していきますが、駒種が一致した状態を維持するために、途中で飛を成らないことが重要です。

ただし、最終手だけは飛を成ります。『直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する』という細則があるので、成る手も合法手なのです。

ただし、一旦成ってしまうともう生駒には戻れないので、このルールでは、「成」を切り札に取っておくのが基本的な戦略になるでしょう。

このルールでは王手が掛かっても玉以外の駒を動かせるので、見たことのない手順の作品ができそうですね。

複数解の構成は定型的で物足りませんが、新ルールに慣れるための例題としては、突飛なものより良いのかもしれませんが。

【短評】

たくぼんさん

飛の王手を防ぐ為に飛を動かす特有の手順。面白い趣向作が出来そうなルールですね。



■ 114-6 尾形充氏作（正解4名）  
最悪詰 15手

					飛				一
						皇			二
							歩		三
			角					銀	四
								王	五
									六
							歩		七
						歩		王	八
					香				九

持駒 なし

【ルール】

• 最悪詰

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

【解答】

37 角 26 香 同角 16 玉 25 銀 同玉  
45 飛成 35 飛 34 龍 16 玉 14 龍 15 飛  
25 龍 同飛 17 香 まで 15 手

(詰上り)

									一
						皇			二
							歩		三
									四
							龍		五
						角	王		六
						歩	香		七
						歩		王	八
					香				九

持駒 なし

【主な変化】

初手：

- 42 角は 24 桂、同角、同歩、45 飛生（45 飛成は 25 歩、同龍まで）、35 角、同飛、同香、(59~26) 角、16 玉、25 銀、同歩、28 桂まで
- 45 飛生は 35 桂で、

- ・同飛は同香、37 角、26 桂、同角、16 玉、25 銀、同玉、17 桂（又は 37 桂）以下
- ・42 角は 24 角、同角（35 飛は同香、24 角、同歩、（59～26）角以下）、同歩、26 角（59～37 角は 26 桂、同角、16 玉、25 銀、同歩、28 桂まで）16 玉、25 銀、同玉、35 飛、16 玉、15 飛（又は 28 桂）まで
- ・45 飛成は 25 香、37 角、26 香、同角以下

### 3 手目：

- ・45 飛成は 25 香以下
- ・45 飛生は 35 桂で、
  - ・同飛は同香、26 角、16 玉、25 銀、同玉、17 桂、36 玉、37 香まで
  - ・26 角は 16 玉、25 銀、同玉、35 飛、16 玉、15 飛（28 桂又は 17 香）まで

### 9 手目：

- ・同龍は同香、15 飛、36 玉、37 香（又は 35 飛）まで
- ・36 龍は 16 玉、〇〇角（25 龍は同飛、17 香まで）、26 桂、同龍まで

### 【主な紛れ】

### 8 手目：

- ・35 金は 36 龍、16 玉、17 角で不詰（17 角のところ 59～15 角は 26 金、25 龍、同金、17 香まで）

### 【作者のコメント】

龍飛のアクロバティックな応酬。定番パターンですが、例のごとく完成度勝負です。

99-10 の収束が出发点で、金合が飛の移動合なら 25 龍を純粋な捨駒にできるのでは、その飛は合駒で出せるのでは、という感じで発展し、仕上げに少し厚みのある序を逆算しました。

短編手数で収まったこと、きわどい変化が軒並み 13 手で割り切れたことなど、上手く行くときは何もかもだなど。

### 【解説】

ご覧のように分厚い変化・紛れに支えられた重厚な作品。そして、この変化・紛れの山を乗り越えれば、攻方の龍の押し売りに、受方の飛が対応する見事な手順を楽しめます。

まず解答者の前に立ちほだかるのが、多岐に

わたる初手の変化です。そこを切り抜けても 2 手目 26 桂合（逆王手）の紛れに誘われます。

受方の基本戦略は 16 玉の形で、25 玉としなくて済む形を作ることです。16 玉が動けなければ、17 香でも 28 桂でも詰むので、状況に応じて都合の良い駒を渡すことができます。

実は受方にはもう一つ奥の手があります。16 玉ではなく 36 玉の形で、玉が動けなければ 37 香で詰みとなります。

攻方の様々な変化に対して、受方は複数の手段を使い分け、自玉を詰ますよう誘導するわけです。

難解な変化紛れを乗り越えれば、冒頭 4 手で本局の骨格ができます。

4 手目の局面で 17 香を打ってしまうと詰んでしまうので、攻方はあの手この手でこれを先延ばしにしようとしています。逆に受方はこの詰上りに誘導するのですが、面白いのは 8 手目 35 飛合でしょう。飛は強力な駒なので、これを渡すと攻方に不詰に誘導されそうに思いますが、飛は斜めに動けないので、中段や入玉型では使い勝手の悪い駒です。一般的なイメージでは飛は強い駒ですが、最悪詰においては実は意外と弱い駒なのです。

なお、38 歩は初手や 3 手目に 45 飛生とする変化に備えた配置です。これがないと変化手順の最後で 37 香の代わりに香を離して打つことで変化同手数になります。これは駒余りですが、最悪詰には同手数駒余り変化を劣位変化とみなす規定は存在しないので、非限定になってしまうのです。

9 手目からは龍の押し売りと、合駒で出現した飛の活用による華麗な応酬になります。作者によると、これは **WFP99-10** を発展させたものだそうです。作家の皆さんにとっては、素材を発展させるやり方の参考になるはずですので、ぜひ本局と合わせてご鑑賞ください。

### 【短評】

#### たくぼんさん

初手いろいろあって結構手を読まないといけない。45 飛成が手が広くなりそうな感じで指し難い。

#### 縫田光司さん

合駒選択の綾が面白くて楽しめました。

26 桂の逆王手で駒取りを強要する手筋が2手目には結局使われず、9手目 36 龍の紛れ(?)で活用されるどころも良くできているなあと思いました。  
ところで、38歩にはどんな意味があるのでしょうか?

一乗谷酔象さん

合駒で打った飛の3段活用が巧い。  
2手目桂合の変化が早く詰むと勘違いし、初手飛成/飛生を読まされた。  
飛成は25香合,飛生は35桂合で早い。



■ 114-7 上谷直希氏作 (正解4名)

協力詰7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
								王		三
										四
									王	五
								ス	ス	六
				飛						七
										八
										九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※透明駒：攻方0枚、受方2枚

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【解答】(※判明した透明駒を括弧内に記述)

55 飛 — X (A)— X — X

35 飛(受方持駒飛) 25 飛

— X(24 銀) まで7手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
								王		三
								銀		四
						飛	王	王		五
							ス	ス		六
										七
										八
										九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

【作者による解説】

(手順解説)

2~4手目の時点では1の着手についての情報が全くなく、合法的な着手可能性が無数にあり、1つに絞れません。しかし5手目 35 飛を皮切りに、かなり手が絞れることになりそうです。

手順を逆向きに追ってみます。そもそも5手目 35 飛とはどういう意味かと考えれば、35地点の透明駒を取った手ということになります。つまり、4手目指了時には35地点に玉方の透明駒がいなければならないことになる。

そうすると、2~4手目の透明駒の手は

2手目：45地点への透明駒合

3手目：35地点への手(もちろん王手)

4手目：王手している透明駒を取った

という着手たちであることが分かりますね。

更に言うと、「もともと攻方は透明駒を持っていなかったのに、なんで3手目にしれっと透明駒を使っているんだ??? 非合法的な手はやってはいけないのでは???」という疑問も出てきそうです。

もちろんいくら透明駒作品だからといって不可能な手は選べません。3手目1は合法です。これは初手 55 飛が、実は透明駒を取る手だったということが言えるからです(透明駒作品で頻出の筋だったりします)。

5手目 35 飛を指すことで、これだけの情報が得られます。

更に内部を正確に評価すると、

・3手目は飛しかない

→つまり、4手目に取りられた駒は飛車。後手の駒台にある透明駒は飛である。

・5手目を取った駒は、少なくとも盤上では横利きを有する駒だった

※成駒（馬や小駒成駒）もあり得るので、必ずしも金や飛に決まるわけではない

ことも分かりますね。

透明駒規則（WFP83号 <http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/WFP83.pdf>）を参照します。一部規則を引用。

#### 4、【透明駒の可視化】

ある透明駒の位置、種類がともに一意に定まったならば、その時点でその透明駒は普通駒となり、以後透明駒の表記法による制約を受けない。

5手目を指した時点で、そこまです得られた情報をもとに普通駒にできる駒があるかどうか考えます。

まず後手の持駒の1枚。後手の駒台という"位置"と、駒種が確定しているので普通の飛車に戻ります。

次に5手目を取った透明駒ですが、先手の駒台という位置は分かっており、少なくとも横利きを有することも判明しているものの、成駒であった可能性もあるためまだ駒種が1種に定まりません。よって透明駒のまま。ただ、もう少し情報が得られれば透明性は剥がせそうですね。

では手を続けます。

6手目は上で述べた通り、透明性が剥がれた飛車を普通駒として使用した自然な合駒。

7手目は透明駒での王手としか分からないようですが、逆王手を無視しない合法的な着手であると考えれば着手地点は24地点でしかありえず、よって銀か角（つまり2手目は成銀か馬の移動合であった）を打ったのだろうと考えられます。どちらであっても詰みであることに変わりないのですが、角の場合2手目が逆王手になってしまい途中の手順が王手無視の反則となってしまうため不可。よって最終手は銀である

と分かります。

#### （紛れ）

(A)35飛、--Iは25地点の合駒の駒種が決まっておらず、次の攻方が--Iとしても27と上（攻方のIが桂馬であったと主張）などと対応される。

(A)45飛、--I、35飛、25と、--I、26と寄、--Iは、最終手が飛や香の離し打ちならば詰みであるが、当然16玉と対応されて詰まない。

#### 【作者のコメント】

以前投稿させていただいた9手詰の修正図です。

受方持駒制限をしないと55飛、--I、45飛、--I、35飛、25飛合ぐらいでも潰れます。

可視化された飛車が持駒にあるとほぼ破綻な狙いであることに加え、(A)--I、42歩合……、といった余詰筋もあるようです（久保紀貴氏指摘）。

以下9手詰投稿時のコメントを本図に合うように修正した文章です。

#### （狙い）

紛れ順(A)35飛、--Iの局面図と詰め上がりの対比が全ての作品。

いずれも先後に透明駒が1枚ずつで、25地点に合駒をしているわけだからほぼ同様に見えるが、その25地点の合駒が可視化されているかどうかという1点のみで異なっている（6手目の合駒が飛車と判明していることから、最終手の着手地点が24であると確定する）。

「透明駒1枚を貰い、そっくりそのまま返す」という過程に、可視化以外の夾雑物を混入させないことを一番に心がけた。

#### （余談）

もともとは持駒→持駒への回収をやりたくて創作を始めた。

回収手筋と呼ばれるものの1つに、原亜津夫氏の看寿賞作に代表される「盤面から持駒への回収」がある。一方で持駒→持駒への回収というのは、盤面→持駒の場合と違って、前後で損得もなければ、位置が変換されているわけではない。局面を変化させる手段としては機能しな

いはず。しかしながら、フェアリールールを駆使すればそこに意味を持たせることができるのではないかと考えた。

「持駒→持駒」という当初の目標を達成できたかと問われると、全然できていない。ただ、「もともと持駒由来だったはずの透明駒を、盤面にいたことにして、結局自分の手元に戻す」というプロセスを経ているのは事実なので、雰囲気は出ていればいいなと考えている。しかしやはり2手目が持駒由来に確定できるまで作り込むべきなのかもしれない。ここについては皆様のご意見を伺いたいところ。

ともあれ当初の目的を完全に表現できたわけではないにせよ、そういう欲望をきっかけに1作こしらえることはできたのは良かったなあと。

さも高尚なことをやっているようではあるが、解くだけならば自作の透明駒作品のなかでも紛れが少なく易しい部類だと思うので、多くの方に見ていただければ。

#### 【解説】

本局は第100回WFP作品展(WFP117号)で余詰のため出題取消となった同氏の作品の修正図です。凝った狙いのため、受方持駒制限が必要になりましたが、それに見合う内容です。

盤上には飛以外に強力な駒がなく、受方持駒も制限があります。従って、透明駒を強力な駒に化けさせなければいけません。

これを実現する手筋の一つが、持っていないはずの透明駒を使うこと。攻方は最初に透明駒を持っていませんが、それを敢えて使うことで、透明駒を取ったことを主張するのです。本局で言えば3手目がそれに該当します。

もう一つは受方の逆王手で駒種を限定すること。本局の作意6手目25飛がそれで、次の透明駒の着手を逆王手のできる銀か角に限定しています(更に、3手目が王手放置にならないため、最終手は銀に限定されます)。

作意手順でなぜ詰むことが証明されるか、その理由は作者自身の解説で詳しく述べられていますが、一覧表にまとめてみましょう。

手数	手順	判明した情報
0		
1	55 飛	25・35・45に透明駒がない。
2	—X	透明駒による合駒。5段目。
3	—X	初形にない透明駒の着手。 初手が透明駒を取った手だった。
4	—X	2手目の合駒で王手駒を取った。 55飛があるので5段目内の移動。 つまり横に動ける駒だった。 3手目も5段目の王手だった。
5	35 飛	25に透明駒がない。 4手目の透明駒を取った。 2~4手目の着手は3筋と4筋。 2手目は4筋、3手目は3筋。 3手目35から王手できるのは飛のみ。 初手に取った透明駒が飛だった。 その飛は4手目で受方持駒になった。
6	25 飛	
7	—X	透明駒による合駒。場所は24。 王手なので種類は角か銀。 3手目が王手放置にならないよう、 2手目は成銀の移動合に確定。 従って最終手も銀。

こうして見ると、5手目の35飛で一気に多くの情報が得られたことが分かります。大きく動ける駒を、敢えて小さく動かすことで、着手可能範囲を狭め、多くの情報を得る手筋です。

作者のコメントによると、持駒から持駒への回収を透明駒で行うというのが、本局の創作の動機だったそうです。持駒の回収自体は協力系ルールでは珍しくありませんが、透明駒で行うと、見えている駒とは違って、大変な手間が必要です。そして、そこが透明駒の面白いところなのでしょう。

#### 【短評】

##### 変寝夢さん

先手の指し手で後手の持駒が確定するのは珍しいと思う。

##### はなさかしろうさん

狙いが明瞭に示されていて美しい問題と思うのですが…自信なし。正解していると良いのですが。



☆はなさかしろう氏は、棋譜の書き方について「5手目は同飛と書くべきでしょうか？」との疑問を呈されていました。筆者としては「同」は前の着手の移動先と同一地点であることを示す記号に過ぎないので、具体的な位置で書いても差し支えないと思います（むしろ「同」という記号自体が不要かも…）。

**たくぼんさん（※無解）**

55 飛 -X -X 24 飛 +24 25 玉 35 飛 迄 と読んだんだけど2手目飛の可能性がある。他の手で最後+35の順は14金の可能性がありダメ。

**縫田光司さん**

透明駒は久々に考えたので合っているかちょっと心配ですが…。ほど良い複雑さで面白かったです。攻方王の位置の関係で2手目に角（馬）合ができないので最終手が銀に確定できてしまうわけですが、確定できないままの方がミステリアスさが増すかなあとちょっと思いました（無理して実現するほどのことではないでしょうが）。

☆縫田氏の解答は、6手目「-X」と書いてあったので、どう扱うか迷いました（この時点では受方持駒は飛と判明しています）が、全体的に見て解けているのは間違いないので正解としました。やはり、変寝夢氏の提言のように、判明した透明駒とその枚数を棋譜に加えるのが良いのかもしれませんが。



■ 114-8 青木裕一氏作（正解6名）

All-in-Shogi協力詰 35手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
歩				將						八
	金	金	金	金		王		歩		九
飛	銀								王	

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

【ルール】

• All-in-Shogi

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

（補足）

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる
- 3) 自玉を取らせる手は反則

→参照：WFP122号「All-In-Shogiの紹介」

【解答】（※相手の駒を動かす手をvで表記）

98 銀 59v 金 48 金 69v 金 58 金上 79v 金  
68 金上 89v 銀 78 銀 89v 金 98 金 89v 銀  
88 銀 69v 金 78 金 79v 銀 68 銀 79v 金  
88 金上 79v 銀 78 銀 59v 金 68 金 69v 銀  
58 銀 69v 金 78 金上 69v 銀 68 銀 49v 金  
58 金 59v 銀 48 銀 39v 銀 28 銀 まで 35 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
歩				將					七
金	金	金		金		王	銀	香	八
飛								王	九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

【作者のコメント】

金銀を入れ替え、銀を1筋方面に運ぶ繰り返し趣向です。

一旦、銀を9筋方面に戻さなければならぬのがアクセント。

【解説】

邪魔駒退避機構付き銀鋸。

銀鋸の軌道を金が邪魔しているの、これをどけながら銀を右に運んでいきます。

ところが、金をどけるためには銀自体が邪魔なので、銀を一旦左に戻さねばなりません。進むために戻る銀鋸です。解くのは易しいと思いますが、実現している手順は高度で斬新です。

本局で示されたように、All-In-Shogiでは玉から遠い攻方駒も容易に動かすことができます。この性質を利用すれば、今まで見たことのない新鮮な手順の作品が生み出せる可能性がありますね。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

そうか、逆算で解けば良かったかも。

8 9 金がそっぽに行く発想が湧かなかった。

はなさかしろうさん

スライドパズルみたいで楽しかったです。

占魚亭さん

All-in-Shogiらしさに溢れた金銀パズル。

たくぼんさん

銀の大移動。楽しい将棋パズルですね。

縫田光司さん

ルールが活きた面白いパズルでした。

もし手数が明かされていなかったら「もっと短い手順があるのではないか」と不安になりそうですが。

一乗谷酔象さん

金銀の入替えパズル。

■ 114-9 青木裕一作 (正解5名)

All-in-Shogi協力詰 111手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一	
									二	
									三	
									四	
									五	
									六	
						龍	香	王	將	七
						桂				八
						桂		王		九

攻方持駒 歩18  
受方持駒 なし

【解答】(※相手の駒を動かす手をvで記述)

38 龍 19 玉

「39 龍 29v 歩 28 龍 38v 龍 29v 玉 19 玉」×18

39 龍 まで 111 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一	
									二	
									三	
									四	
									五	
									六	
							香	王	將	七
						桂				八
						桂	龍		王	九

攻方持駒 なし  
受方持駒 歩18

【作者のコメント】

持歩の邪魔駒消去の繰り返し趣向です。

【解説】

自玉詰系以外でも持駒消去ができる——近年は多くのルールでそんな例が見つっていますが、**All-in-Shogi**でもそれが可能だということを示すのが本局です。

その意味付けは明快。「敵の持駒を打ってもいい」というルールにより、受方は攻方の持駒を合駒代わりに使うことができます。というより、他に手がないので使わざるを得ません。攻方は持駒がなくなれば、合駒もなくなるので、それで詰むというわけです。

持駒消去と言っても、実際は持駒が攻方の駒台から受方の駒台に移動しているわけですが、「行き所のない駒」の禁則により、受方は**29**歩を打てません。この非対称性が、持駒消去成立の要となっているわけです。

歩の取らせ方も**All-in-Shogi**らしい方法です。普通なら歩を動かして取らせるのが一般的ですが、歩は不動のまま玉の方を動かして、歩を取らせませす。ただし、歩を打った直後にこれを取らせると、玉の逃げ道がなくなって、龍を取らざるを得なくなるので、龍の位置を少し変える細かい準備が必要です。

本局は手数こそ**100**手を越える長編ですが、印象は「可愛い小品」ですね。気軽に解けて、解答者に癒しを与える。そんな作品も詰将棋には必要です。

【短評】

**変寝夢**さん（※無解）

結構時間かけて、考えたが**29**歩の発想はついに出来なかつた。**All-in-shogi**は作るのと解くのでえらい違うなと思った。**29**歩か・・・、残念。

**はなさかしろう**さん

手は狭いのに **All-in-Shogi** ならではの手がなかなか見えませんでした。手数が長いと満足感があって幸せです。

**占魚亭**さん

なるほど、**All-in-Shogi**ではこうやって長編を作るんですね。楽しい作品でした。

**たくぼん**さん

**29v** 歩にしばらく気付かず。あ～そうか・・・

**縫田光司**さん

単純明快かつルールの味も活かした軽趣向で良いですね。

**一乗谷酔象**さん

効きが強すぎて自由に動けない龍。攻方の合駒?消費が **All-in-Shogi** ならではの面白い仕掛け。

☆くろうさぎ氏は「**38** 龍 **19** 玉 **39** 龍 **29** 歩 **28** 龍 **38** 龍 **29** 玉 **37** 龍×**18** **38** 龍 **19** 玉 **39** 龍まで」の解答でした。この手順は手数超過ですし、**37** 龍直後の **38** 龍は「1 手前の局面に戻すような着手は禁手」とする規定に抵触します。手数計算をきちんとしていれば防げた誤答なので、勿体なかったと思います。

■ **114-10** くろねこ氏作（正解3名）

協力自玉詰 **832**手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			銀						一
	糸			金					二
	金	香		金					三
	銀			香					四
		桂	王	角					五
				香					六
桂		王							七
金			桂						八
			龍	龍					九

持駒 飛歩**17**

【解答】

「**62** 飛 **63** 角 同飛生 **74** 玉 **96** 角 **85** 銀  
**65** 飛成 同玉 **87** 角 **76** 飛 同角 **74** 玉  
**85** 角 **65** 玉 **76** 角 **74** 玉 **65** 角 同玉  
**62** 飛 **63** 角 同飛成 **64** 桂 **74** 龍 同玉  
**85** 銀 **65** 玉 **87** 角 **76** 桂 同銀 **74** 玉  
**96** 角 **85** 飛 **65** 銀 同玉 **87** 角 **74** 玉  
**86** 桂 同飛 **96** 角 **65** 玉 **66** 歩 同飛  
**87** 角 **76** 飛 同角 **74** 玉 **65** 角 同玉」×**17**  
**62** 飛 **63** 角 同飛生 **74** 玉 **96** 角 **85** 香  
**65** 飛成 同玉 **87** 角 **76** 桂 同角 **74** 玉

65 角 同玉 57 桂 同龍 まで 832 手

(詰上り)

			銀							一
	歩			金						二
	金	香		金						三
	銀			香						四
	歩	桂	王	角						五
				香						六
桂		王		龍						七
金			桂							八
			歩							九

持駒 なし

【作者のコメント】

fmza を使用した結果、現段階では 17 サイクルが最高ようです。

元々の課題は 17 サイクルだったようなのでとりあえずの終着地点としたいと思います。

課題云々言っていますがこちらは狙ったものではなく、「詰方の持駒増幅」を含む機構になります。純粋に 1 サイクル内で持駒を増やすだけの機構を組み込んだ機構は昔はありそうですが昨今は余りない気がします(昔は知らないもので何とも言えませんが)

機構内で飛車の成・不成が同時に入ったのは偶然ですが全体的に満足できる 1 サイクルとなっております。協力自玉詰での増幅機構作品を色々見てみたい気がします。

【解説】

「玉の可動域 2 箇所」の長編第三弾。

本局はシリーズ最大規模、48 手の長大なサイクルを持つ持駒消去作品です。

ただ単純にサイクルが長いだけではありません。サイクル内に「飛角銀桂」の 4 種 8 回の合駒が入り、その中には飛と桂の移動合も含まれます。その上、63 飛の成・不成を状況によって使い分ける(3 手目が不成で 21 手目が成)手も入って、より巧妙さが引き立っています。

もう一つ、本局の大きな特徴は、持駒消去の中に持駒増幅が入っていることです。

初形と 18 手目を比べてください。持駒に銀が増えていきますね。

持駒消去の手順に“純粋な”持駒増幅が組み込まれるのは、意外と珍しいことです。

持駒消去準備のために事前に持駒を増やしたり、持駒を消す助けになるよう一時的に持駒を増やしたりする作品はありますが、持駒が増えただけで、それ以外に違いのない局面が登場する作品は案外少ないのです。

とはいえ、そういう前例が皆無というわけではありません。調べてみると面白い事例が出てきたので紹介します。

【参考】持駒増幅を伴う持駒消去

TR 銅尊作

ばか自殺詰 298 手

										歩	一	
										香	王	二
								歩	金	香		三
										飛	桂	四
				金	玉	金	角	桂				五
									桂			六
												七
												八
												九

持駒 歩18

(詰将棋パラダイス,1988年8月, 早詰262手(駒井信久氏指摘))

この作品の作意は以下の手順でした。

13 桂成 同玉 64 飛 24 角 同角 12 玉  
 13 角成 同玉 「57 角 46 桂 同角 35 桂  
 同角 24 角 25 桂 12 玉 13 歩 同角  
 24 桂 同角 13 桂成 同角 同角成 同玉」×18  
 57 角 同龍 まで 298 手

持歩の消去中に桂を合駒で稼いでいるものの、作意には純粋に桂が増えただけの局面は現れません。ところが、解答者の一人である駒井信久氏が次の早詰を指摘しました。

13 桂成 同玉 64 飛 24 角 同角 12 玉  
 13 角成 同玉 「57 角 46 角 同角 35 銀  
 同角 24 桂 同角 12 玉 13 角成 同玉  
 57 角 46 桂 同角 35 角 24 銀 12 玉  
 13 銀生 同角 24 桂 同角 13 歩 同角  
 24 桂 同角 13 歩 同角 同角成 同玉」×9  
 57 角 同龍 まで 262 手

この早詰は1サイクルで歩を2枚消す巧妙なものです(作意は1サイクルで1枚)。

この手順の8手目と18手目の局面を比べてください。持駒に銀桂が増えている以外、まったく同じですね。

私が調べた範囲では、協力自玉詰の持駒消去のサイクルに、“純粋な”持駒増幅が組み込まれた作品はこれが最初です。新機軸を打ち出したのは、作者ではなく、解答者だったというわけです。

ただ、このような前例があったとしても、本局の手順が素晴らしいことは変わりません。玉があまり動けないことを逆手に取り、玉以外の駒を大活躍させ、華麗な作品を作り上げたことに称賛の言葉を贈りたいと思います。

なお、作者のコメントにあるように本局の検討には **fmza** が活躍しています。特にこの種の作品では **/EWFS** (幅優先探索) オプションを指定する方法が極めて有効です。 **f m** は縦型探索なので、私のマシンだとこの作の検討に1時間半以上掛かるのですが、 **fmza** で **/EWFS** オプションを指定すると、 **25** 分で済んでしまいます。皆さんも、超長編を検討する時はこの方法を試してみてください。

### 【短評】

#### 変寝夢さん (※無解)

どこに歩を打つのかなと思っていたが、想像もつかないところだった。

#### 占魚亭さん

同地点に打った飛車の成・生を織り込んだ、巧妙なサイクル。とても面白かったです。

#### たくぼんさん

2ヶ所の逃げ場で見事な応酬が展開される。昔懐かしい感じで楽しい限り。

#### 一乗谷酔象さん

48手で持歩1枚を消費するサイクルが巧妙。前半の銀入手までは手なりに進むが、後半の64桂～76桂跳が手数短縮の鍵。

### 【総評】

#### 変寝夢さん

位置が判明した透明駒は覆面駒になるのかなと思っていたが、そうでもないようだ。いつかソフトで検討できるよう頑張ろう。

☆覆面駒や透明駒がソフトで検討できるようになれば画期的なので、ぜひ頑張ってください。不完全情報詰将棋の検討プログラムとしては、作田誠氏の衝立詰将棋を解くプログラム(松原仁編著「コンピューター将棋の進歩4」、共立出版、に論文が収録されています)があるので、不可能ではないと思います。

#### たくぼんさん

全解は出来ませんでした。楽しめる作品群でした。

☆今回は前回に比べ問題数は少なかったですが、難度は高かったようですね。内容は充実していたと思いますので、解けなかった作品も解答を見て鑑賞していただけたらと思います。

以上



推理将棋第118回出題解説

推理将棋第118回解説 担当 Pontamon

第118回は"1"と"18"に関連する作品が揃いました。(担当 NAO)

第118回 出題2017年12月26日、解答締切2018年2月10日、解答18名

\*\*\*\*\*

118-1 初級 原岡望作  
指し初めは踏んだり蹴ったり 11手

「指し初めの一局はどうだった？」  
「1つの駒しか動かさなかったのに11手で詰まされちゃった。おまけに4回も王手があって踏んだり蹴ったりだった。成る手はなかったよ」  
「1つの駒だけ動かして11手とは指し初めらしい対局だとおもうよ。よき1年になりますように」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・後手は1枚の駒しか動かさなかった
- ・王手4回
- ・成る手なし

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

王手が続く詰み形を推理しよう。

追加ヒント

歩の王手3連発で決まり。

\*\*\*\*\*

推理将棋118-1 解答

▲76歩 △42玉 ▲33角不成 △同玉 ▲26歩  
△24玉 ▲25歩 △15玉 ▲16歩 △14玉 ▲15歩 まで11手

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・後手は1枚の駒しか動かさなかった (2手目△42玉、4手目△33同玉、6手目△24玉、8手目△15玉、10手目△14玉)
- ・王手4回 (3手目▲33角不成、7手目▲25

歩、9手目▲16歩、11手目▲15歩)  
・成る手なし

詰上り図

後手の持駒：角

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞		丞	爵	科	皇	
二		飛						角		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四									王	
五								歩	歩	
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩			
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

後手の着手が1枚だけとなると、詰まされるために詰み位置へ移動して行く玉です。後手は他の駒を動かして玉の退路封鎖の協力手を指すことができないので、王手によって戻ることができない状況で隅か端へ行くこととなります。

隅へ行くには22の角とか82の飛が邪魔ですし、1段目の銀や金があると詰ませにくいので、正解は中段の端です。しかし、玉の着手だけでは中段へ出るための歩突きができませんので、先手が角を捨てて中段への出口を提供します。では、端と言っても1筋でしょうか、9筋でしょうか？

参考1図

後手の持駒：角

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞		丞	爵	科	皇	
二		飛						角		
三	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四	王									
五	歩	歩								
六			歩							
七			桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香		銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩



9筋へ行って詰まれた局面が参考1図ですが、成る手なしと王手4回をクリアしていますが15手も掛かっています。手数が増えた原因のひとつは▲85歩を守るための▲76歩、▲77桂の2手が必要だったからです。

参考1図の手順

▲76歩、△52玉、▲55角、△62玉、▲73角不成、△同玉、▲77桂、△84玉、▲86歩、△95玉、▲96歩、△84玉、▲85歩、△94玉、▲95歩

となると、後手玉が向かうのは1筋です。△14玉で詰まされる際、▲15歩は香で支えられ、▲25歩は飛で支えられているので11手で詰ますことができます。

既出作品は66-1 DD++作「居玉は避けよというけれど」でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

原岡望(作者)「詰工房で思い付きました。問題文の見事に感嘆しました。」

Pontamon「既出手順とのことですが浮かばず、結局最後の解図になりました。66-1はまだ推理将棋に出会う前。去年の年賀推理作品では紛れ筋として検討していたのに完全に忘れてました。」

NNN「慣れてこのパターンかと予想できたので簡単でした。」

■端玉を歩突きで仕留める定番手順。

小山邦明「歩突きで詰ます事ができるのですね。」

■既出作以外にも、14玉を15歩の歩突きで詰める作品では、33-2 けいたん作「いちご白書」や109-3 Pontamon 作「地味な指し初め」があります。

RINTARO「ヒントで詰め上がり図が分かった。初級はこれくらいがいいです。」

斧間徳子「客寄せに相応しい素直な問題。」

■簡単だったという感想と…

S.Kimura「答えが分からなくて、やむなく過去問を探しました。角と銀で詰まそうとしていたので、この発想は浮かびませんでした。」

山下誠「歩で詰めるとは全くの想定外でした。最終ヒントがなければお手上げ。」

諏訪冬葉「ヒントを見るまでこの手順を忘れていました。」

■難しかったという感想。体調や相性も解図に関係あるようです。

小木敏弘「勇敢な王の上部進出も、飛香の射程圏で仕留められました。」

■最初から紐が付いている危険地帯へ出ていく玉が悪い？

飯山修「作者が増えることは大歓迎」

■投稿の常連さんがもっと増えて欲しいです。

榊彰介「優しかったので、今回唯一解けました。」

ほっと「成る手なしならこの展開。」

リーグ戦ファン「この筋は、攻め方が手余りの上に10手で詰む形で、どう条件付けするかを昔よく考えてましたので瞬殺。なるほど、11手で王手4回ですか。巧みです。」

占魚亭「条件から後手の駒は玉しか考えられないので易しい。」

\*\*\*\*\*

正解：18名

Pontamon NNNさん 小山邦明さん

RINTAROさん 斧間徳子さん S.Kimuraさん

山下誠さん 小木敏弘さん Miyaさん 飯山

修さん 原岡望さん 榊彰介さん ほっとさん

キリギリスさん リーグ戦ファンさん はなさ

かしろうさん 占魚亭さん 諏訪冬葉さん

\*\*\*\*\*

118-2 中級 Pontamon 作

2018年は1の地点8回 11手

「今年の指し初めは干支にふさわしくワンワンの11手で詰んだね」

「ワンと言えば1段目に駒が成ったね」

「1が付く地点への着手が8回で2018年の指し初めにピッタリ」

「1の付く着手地点の数字は1以外に2つだけだね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・1が付く地点への着手が8回あり、その8回の着手地点の数字は1以外に2つだけ
- ・1段目に駒が成った

\*\*\*\*\*

出題のことは(担当 NAO)

1が付くのは1筋と1段目。1筋と1段目の着手点で使える共通の数字を推理しよう。

追加ヒント

1が付く着手地点の数字は1以外に4と5。  
14,15,41,51の各地点の着手が計8回。

\*\*\*\*\*

推理将棋 118-2 解答 担当 Pontamon

▲76歩 △52玉 ▲33角不成 △51金左 ▲同角不成 △14歩 ▲41金 △15歩 ▲同角不成 △51金 ▲同角成 まで11手

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・1が付く地点への着手が8回あり、その8回の着手地点の数字は1以外に2つだけ  
(4手目△51金左、5手目▲51同角不成、6手目△14歩、7手目▲41金、8手目△15歩、9手目▲15同角不成、10手目△51金、11手目▲51同角成、1以外の数字は4と5)
- ・1段目に駒が成った(11手目▲51同角成)

詰上り図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵		馬	金	爵	科	皇	
二		遊			王			皇		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩		
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 金歩2

棋譜に1が付く着手地点はもちろん1筋と1段目。その1が付く地点の着手が8回あったと言っても棋譜に使われている数字は1以外に2つだけとなると、1段目の横這いや1筋で上下するという着手は、隣り合うまたは上下の2地点での行き来になるのでしょうか？

11-99の対角線に対して、線対称な1筋と1段目の間を角が行き来すると、1以外の同じ数字の地点での行き来が可能です。後手の着手もそれらの地点の着手をしなければいけません。11手中の8手がそのような着手だとすると残り3手でどんな手を指せば詰み形に持っていきけるかが課題になります。そのうちの2手は▲76歩と▲33角不成です。1段目で成れる駒は先手の角しかないので▲33角では不成です。

もし残りの1手を△34歩で、▲22角不成にしようとするとうまく角移動は13-31の着手だけで、▲41金で王手とするのが精一杯になります。(参考1図)  
参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	一	
									二	
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	三	
									四	
									五	
									六	
									七	
									八	
									九	

持駒 角銀香

参考1図の手順

▲76歩、△34歩、▲22角不成、△14歩、▲31角成、△13香、▲同馬、△31金、▲同馬、△13桂、▲41金

1が付く地点以外の3手のうち2手が▲76歩と▲33角不成なら2手目の後手の着手は何でしょう？1筋と1段目を行き来できる角は33に居るので、この角は15と51を行き来するしかありません。なぜなら、23の歩や43の歩が居るため、角成した後に1マス移動しても、14-41や16-61の行き来ができません。したがって、角が15と51を行き来できるように、2手目は玉を移動して51地点を空ける必要があります。玉の移動先は52です。62へ移動してしまうと、王手された時に72への退路が残るからです。つまり、初手から、▲76歩、△52玉、▲33角不成で参考2図となります。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	一	
									二	
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	三	
									四	
									五	
									六	
									七	
									八	
									九	

持駒 歩

この局面から玉が動かずに詰めるには、61の金が居なくなっていて51に馬が居て41には馬を支える金の配置の詰み形が見えます。

1段目の駒成の条件から、最終手は▲51角成ですがその馬を支える▲41金を先に指す必要があるため、41の金を△51金とする手があるはずですが、61の金が残っていると詰まないためこの金も△51金として先手に取らせる必要があります。

さてここで着手をカウントしてみます。51地点は左右の金が移動するために2回は空いている必要があります、先手の角は51地点で2回金を取り、51地点を空けるには▲15角不成と指しますが3手目時点で51は空いているので▲15角不成は1度になります。また、最終手の▲51角成を支えるための▲41金の着手が必要です。これで先手の4回の着手が確定していて、後手は51へ左右の金を移動する2手だけしか決まっています。後手の残り2手は何が指せるでしょう。可能なのは△14歩と△15歩になります。

▲41金のタイミングに注意する必要がありますが、これで解くことができました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者) 「前代未聞の作者誤答をするところでした。(10手目△14香で不詰み)」

NNN 「1一もあるかとも思いましたがなかったですね。玉の近くだと1以外の数字は真ん中あたりかと考えてみるとできました。」

小山邦明 「15に駒を持ってるのがうまい手順だと思いました。」

RINTARO 「物理的に初手3手必然、4手目以降1の付く指し手なので51, 41を使うしかないと考えれば解けます。」

斧間徳子 「すぐに15角生とせずに41金と打つのが唯一の見せどころ。」

S.Kimura 「11 への着手も考えたので、着手地点を定めるのに苦労しました。」

■15-51 を見つけられれば解けたも同然。

山下誠 「後手の1四歩から1五歩が絶妙の2手パスで、完全にだまされました。」

小木敏弘 「端歩の連続付きが名手かも。」

■この着手が可能だったので年賀条件にできました。

飯山修 「数字で限定する問題は以外と埋もれているのかも」

原岡望 「後手に5手指させる工夫。」

■△14歩、△15歩が条件クリアのための辻褄合わせ。

榊彰介 「分かりませんでした。直前ヒントでも指し手が思い浮かびませんでした。」

ほっと 「これしかないとは言え、1が付かない地点への着手を頭3手で使い切ってしまうのは不安になる。」

リーグ戦ファン 「これは▲76歩▽52玉▲33角不成▽51金右▲同角不成▽32金▲15角▽41玉▲51金打までの9手詰の筋の条件付けを考えたことがあるので瞬殺でした。この条件付けもなるほどですね。1筋の歩を取るタイミングが素敵。ところで、最後の「1段目に駒が成った」は、9手目の角成不成の限定目的だけなのでしょうか？もし他に意味がないなら「1段目に駒が成らなかった」の方がマギレが多いかなと思いました。」

■駒成りしちゃいけないと勘違いするかもしれない「成駒の着手なし」も良さそうです。駒成るとしても、1段目と1筋の両方が可能ですし。

諏訪冬葉 「ヒントを見て41玉を詰ますと予想して外しました。」

■少し遠回りしましたが無事正解へ辿り着きました。

\*\*\*\*\*

正解：15名

Pontamon NNNさん 小山邦明さん

RINTAROさん 斧間徳子さん S.Kimuraさん  
山下誠さん 小木敏弘さん 飯山修さん 原岡望さん ほっとさん キリギリスさん リーグ戦ファンさん はなさかしろうさん 諏訪冬葉さん

\*\*\*\*\*

118-3 中級 NAO 作

18手目の初王手

18手

「あけましておめでとう。新年早々調子がよさそうだね」

「"同"の付く手が2回あって、18手目の初王手で11の玉を詰ませて勝ったよ」

「2018年の元旦にぴったりだね」

「それだけじゃないよ。1つの駒が8連続で動いたし、1筋の手が11回あったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか。そして2018年、貴方の勝負手は？

(条件)

- ・18手目の初王手で11地点の玉が詰んだ
- ・"同"の付く着手が2回あった
- ・1つの駒が8連続で動いた
- ・1筋の着手が11回あった

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

8連続で動くのはもちろん玉。11地点で詰む形を推理しよう。

追加ヒント

同の付く手は9手目15同玉と13手目13同玉。

\*\*\*\*\*

推理将棋 118-3 解答 担当 Pontamon

▲36歩 △14歩 ▲48玉 △15歩 ▲37玉  
△16歩 ▲26玉 △15香 ▲同玉 △11角 ▲14玉 △13桂 ▲同玉 △32銀 ▲12玉 △31金 ▲11玉 △21金 まで18手

(条件)

- ・18手目の初王手で11地点の玉が詰んだ (17手目▲11玉、18手目△21金)
- ・"同"の付く着手が2回あった (9手目▲15同玉、13手目▲13同玉)

・ 1つの駒が8連続で動いた  
 (3手目▲48玉、5手目▲37玉、7手目▲26玉、9手目▲15同玉、11手目▲14玉、13手目▲13同玉、15手目▲12玉、17手目▲11玉)

・ 1筋の着手が11回あった  
 (2手目△14歩、4手目△15歩、6手目△16歩、8手目△15香、9手目▲15同玉、10手目△11角、11手目▲14玉、12手目△13桂、13手目▲13同玉、15手目▲12玉、17手目▲11玉)

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	玉			飛	玉	一
	飛					飛			二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
					歩			歩	六
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 角桂香

2018年1月1日に因んで、18手、1つの駒が8連続、1筋11回が条件に入った年賀詰です。

11地点の玉が詰んだことと一つの駒が8連続で動いたということから、初手は中段への出口になる歩を突く手で、残りの先手の8手は玉を11へ移動して行く手だとわかります。また、1筋の着手が11回なので玉移動は1筋が多いはずで、そうすると11にある香が居なくなっていないといけません。

玉が一番早く1筋へ行くには初手の歩突きは▲36歩で、その後玉が斜め一直線で15へ行けるのは9手目なので、玉の1筋移動は15から11までの5回。1筋の着手の残り6回は後手が指すこととなります。

後手の香が利いている状態では▲15玉はできないので、後手は2手目以降に1筋の歩を△16歩まで突いて次に△15香とすることになります。タイミングはバッチリで△15香は1筋

着手4回の8手目なので、9手目で▲15同玉ができます。

先手玉が11まで行く道中で、13地点へ利いている桂と角の処理が必要で、1筋の着手もあと2回残っています。桂と角の両方の駒が13地点に利いているのでどちらかひとつの利きを外さないと先手玉は13地点へ進めません。桂は13にしか行けませんが、角は11へ引くことができるので、1筋の残り2回着手は△13桂と△11角になります。

同の着手2回の条件があるので、△11角を先に指して、△13桂を"同"の手で取れる手順にしなければいけません。

途中図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	玉	金	銀		角	一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
						歩		歩	六
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 桂香

途中図は▲13同玉と桂を取った13手目の局面ですが、後手飛の横利きがあるので、11へ玉が辿り着くことができ、さらにどうやって詰ますのかが問題です。後手の着手は残り3手なので、まずは△32銀で飛の横利きを遮って▲12玉をできるようにし、△31金、△21金で11の玉を詰めることができます。長旅をして来た玉があっけなく後手の3手で詰まされます。

本作は2018年にピッタリの条件で、理論立てて考えるとスッキリ解ける好作でした。(参考図は不要でした)

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon 「練習問題の条件とごちゃ混ぜになって、18手目の18の初王手で11の玉が詰んだと勘違い。同玉で持ち駒があるなら18飛は両王手のはず。途方にくれました。王様の通り道作りと王手回避の協力で手数を費やして、間に合うのか心配でしたが金の2連続寄りで隅玉を詰めれるのは意外。」

NNN 「過去に1一に先手玉が行く問題があったような記憶が(曖昧ですが)。飛車の横ききを銀で塞いで金の横移動で仕留めるばいなどになると玉は59 48 37 26 15-11しかなく、考えやすい範囲内で答えにたどり着けた感じです。」

■11へ先手玉が行く作品は9 6 - 3はなさかしろう作「一番街の駒取り祭」でしょうか。

小山邦明「連続着手と1筋の着手の条件で見事に限定されている。」

斧間徳子「1筋の着手が11回、という条件ですっきりまとめているのがうまい。」

S.Kimura 「先手の手がほとんど限定されていたので、解きやすかったです。」

山下誠「1六歩から1五香が予想外で、一直線に入玉ができずに大苦戦でした。」

小木敏弘「玉が重戦車のように敵陣深く突入も、援軍なく玉砕。」

飯山修「大駒のエサは強力」

原岡望「玉の道を空けて誘き寄せる。」

リーグ戦ファン「先手9手で11玉+1つの駒が8連続で動いた」の条件だけで先手の手はほぼ決まり、あとは後手が懸命に先手玉のルートを作っていくという私の大好きなタイプのパズルでした。約20分。手順前後を「同の付く着手が2回」だけで縛ったのがすごいです。」

■年賀条件の1筋11回で玉を後手陣へ無理なく誘導。

RINTARO 「条件より先手の指し手が決まる。次に1筋からの侵入を可能にするための後手

の指し手が決まる。実質5手詰だが楽しめました。」

榊彰介「分かりませんでした。先手の指し手は、3六歩から玉が1一目指して一直線までは分かりましたが、終盤の後手の指し手が不明でした。」

ほっと「8連続で動いたのは先手玉、は予想通りだが、どうしても途中で王手が掛かってしまいヒント待ち。32銀~31金~21金が見えなかった。」

諏訪冬葉「近くの駒を全部捨てたせいで最終形が浮かばず一苦労」

■最後の5手が考えどころ。

\*\*\*\*\*

正解：15名

Pontamon NNNさん 小山邦明さん

RINTAROさん 斧間徳子さん S.Kimuraさん

山下誠さん 小木敏弘さん 飯山修さん 原岡

望さん ほっとさん キリギリスさん リーグ

戦ファンさん はなさかしろうさん 諏訪冬葉

さん

\*\*\*\*\*

118-4 上級 Pontamon 作

2018年1月1日生

20手

「あけましておめでとう」

「今年もよろしくお祈りします」

「今日は初孫が生まれる予定日なんだ。なので、指し初めは、20手で詰んで、18の駒が11へ動く手があって、最後は生の手の対局にしたいんだ」

「なるほど、2018年1月1日生か。めでたいね、協力するよ」

「では、お願いします」

・・・

「うまくいったね」

「後手の王手は全部で5回あって、成る王手、普通の王手、空き王手、持駒を打つ王手、不成の王手の順番だったね」

「双方とも、一旦着手をやめた駒は二度と動かさず、別の駒の手を指していたね」

「新春らしく、王手も使用駒も初物尽くしだったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・20手で詰んだ
- ・18の駒が11へ動いた
- ・後手の王手は5回あり、"成る王手"、"普通の王手(\*1)"、"空き王手(\*2)"、"持駒を打つ王手"、"不成の王手"の順番だった
- ・一旦着手をやめた駒は二度と動かさなかった(\*3)

\*1 "普通の王手"は、移動した駒の効きによる王手で、棋譜に成や不成が付かないものです。

\*2 "空き王手"は両王手を含みません。"空き王手"の手が成/不成の手を兼ねる場合、"空き王手"としてのみ数えます。

\*3 同じ駒の連続着手は可。成駒は別の駒とみなし、生駒からの連続着手をしなくても可。

\*\*\*\*\*

出題のことば(担当 NAO)

5種類の王手が難関。空き王手の形を推理しよう。

追加ヒント

初王手は歩成。18手目18地点に飛車を打ち、11飛不成で詰み。

修正

修正前

「後手の王手は、最後の不成の王手の他、成る王手、空き王手、持駒を打つ王手、普通の王手の計5回だったね」

修正後

「後手の王手は全部で5回あって、成る王手、普通の王手、空き王手、持駒を打つ王手、不成の王手の順番だったね」

\*\*\*\*\*

推理将棋 118-4 解答 担当 Pontamon

▲26歩 △14歩 ▲48玉 △15歩 ▲38玉 △16歩 ▲27玉 △17歩成 ▲36玉 △28と ▲25玉 △13桂 ▲14玉 △25桂 ▲23玉 △19香成 ▲12玉 △18飛 ▲21玉 △11飛不成まで20手

(条件)

- ・20手で詰んだ
- ・18の駒が11へ動いた(18手目△18飛～20手目△11飛不成)
- ・後手の王手は5回あり、"成る王手"、"普通の王手"、"空き王手"、"持駒を打つ王手"、"不

成の王手"の順番だった

(8手目△17歩成、12手目△13桂、14手目△25桂、18手目△18飛、20手目△11飛不成)

- ・一旦着手をやめた駒は二度と動かさなかった(▲26歩、▲48玉～▲21玉、△14歩～△17歩成、△28と、△13桂～△25桂、△19香成、△18飛～△11飛不成)

詰上り図

後手の持駒：香歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	将	将	王	将	将	玉	将		一
	将						将		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩			三
									四
							将		五
							歩		六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩			七
	角						入		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	卒	九

持駒歩

2018年1月1日に因んで、20手目に18の駒が11へ動いて詰みになるという年賀詰で、条件からは先手玉が後手陣の奥深くまで移動することを隠した構想作でした。

11へ動ける18の駒は飛か先手の香しかなく、香の移動だと単なる年賀条件クリアのための無駄手になりそうなので、この移動をする駒は後手の飛なのではないか？それに加えて、最終手が不成の手なので、△11飛不成で玉を詰ます手順なのではないか？

と推理すると、先手玉は敵陣の何処へ行く必要があるのか？5種の王手条件をクリアするにはどんな経路で後手はどのようにして王手するのかを順に考えると解ける仕様になっています。

詰み上がりの玉位置は、飛の移動ができて飛不成で詰むのであれば、21地点で確定です。先手玉は21への8段移動になります。玉が中段へ出るための出口作成のための歩突きを合わせても9手なので1手足りません。一度玉を動かし始めたら、条件によって途中で止まるわけにはいかないのです。玉が動く前に歩突き以外の手



があるのか、玉移動の中で同じ段の連続着手があるかのどちらかになります。(段を戻ると1手オーバーします)

参考1図

上手の持駒：飛

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						香	桂	科	皇
						歩	歩	歩	皇
									歩
							玉		
									香

持駒 なし

普通の王手の後に空き王手があるので、参考1図のような配置が思い浮かぶかもしれません。この△13角の王手に対して余っていた1手を使い▲25玉と寄って、次に▲14玉へ行くと△22角での空き王手が可能です。玉は前へ進むしかないので▲23玉。△19香成に▲12玉、△18飛の駒打ち王手、▲21玉に△11飛不成の王手で詰み。空き王手で22へ戻った角が11の飛を支えます。

もう解けたも同然で、10手目の参考1図になるまでに駒成での王手をかわせばいいだけだと思いきや…。後手角を使っての駒成王手ができないので、後手は歩成での王手しかありません。

ところが、歩成ができるのは8手目で、9手目には参考1図の玉位置の▲35玉をしないとけないので歩成が王手にはなりません。

詰み上がりから逆算したのがまずかったようです。初手からの手順を考えてみると、タイミングよく角成で王手することができません。しかも後手は28の飛を入手しておく必要があるので角成王手で捨てるわけにはいきません。

後手は1筋の歩を伸ばして△17歩成で王手します。先手は王手がかかるように初手▲26歩から▲27玉で王手を掛けられて9手目に▲36

玉とかわしたのが参考2図です。後手はこの後△28とで飛を入手し、先手は▲25玉として△13桂の通常王手を受け、▲14玉に△25桂の空き王手です。角は初期位置に居るままですが、この後の展開は参考1図のとくと同じ展開になります。

参考2図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	桂	香	王	香	桂	科	皇	
	歩						皇		
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		
							玉	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		ス	
	角						飛		
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 なし

【出題時条件での余詰】

出題時の修正前条件では、空き王手の一種の両王手や5種の王手の出現順が限定されていないことによる余詰手順の解答をいただき、条件修正となりました。

NNNさんから指摘のあった余詰手順

(18香が11へ移動、両王手、王手種類の出現順は作意とは異なる)

- ▲16歩、△14歩、▲15歩、△34歩、▲14歩、△同香、▲58金左、△17香成、▲18香、△28成香、▲11香成、△77角成、▲69玉、△87馬、▲68玉、△78飛、▲69玉、△79飛不成、▲68玉、△69飛不成

指摘手順をベースに担当のNAOさんが発見した余詰手順

(出題時条件を全てクリアしている完全な余詰)

- ▲16歩、△14歩、▲15歩、△34歩、▲14歩、△同香、▲48金、△17香成、▲18香、△28成香、▲11香成、△77角成、▲49玉、△67馬、▲59玉、△58飛、▲49玉、△68飛不成、▲58金上、△69飛不成

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「年賀状は「歩の着手で始まり、20手目に18の駒が11へ不成で動いたのが5回目の王手となり、先手玉が詰んだ」にしましたが、おもちゃ箱では98-4の類作もあるので、先手陣や中段での詰み上がりも紛れ筋として残せる条件にしたかったのです。縛りを緩めるとどの条件でも余詰み発生。あの手この手で条件を絞り出した力作なのか、その都度余詰み検証されたNAOさんの力作なのか…。」

NNN (余詰解)「二手目と四手目が限定されていません。ので作意でないような気も。何度も確認しましたが不安です。開き王手は77玉34歩を考えましたが見つかりませんでした。手がかりは1811移動が限定されるとなると香でないため、その道筋をあけるのは飛車を取る手でないためそう(後で飛車を使う)というところですね。」

■粗検申し訳ありませんでした。

小山邦明「ものすごく難しかった。玉が1段目まで行くとは予想外。」

RINTARO「118-3と似た手順。今度は17歩成を可能にする26歩からスタート。先手玉の指し手と後手の指し手が見事に調和し、詰め上がりまで一気呵成でした。」

斧間徳子「21で詰むとは！」

小木敏弘「まさかの玉移動が予想外。」

■担当のNAOさんから何度余詰み手順を差し戻されても、最後まで条件に入れなかった後手陣への玉移動。

S.Kimura「王手の条件をどのように使ったらよいのか見当が付き、ヒント待ちでした。余詰修正に気づいていなかったのですが、王手の順番が分かっていたら考えやすかったかもしれません。」

山下誠「空き王手を角で掛けようとして手数超過。香と分かれば簡単でした。」

飯山修「13桂の普通の王手に気が付かず大苦戦」

原岡望「上手く潜らせる。」

榊彰介「分かりませんでした。かなりの難問でした。」

ほっと「こちらの手順が全然予想できずヒント待ち。「18の駒が11へ動く手」が後手の飛車とは！19香成が一石二鳥の好手。」

■5種類の王手が悩みの種。

リーグ戦ファン「18の駒が11へ動く手が最後の不成の王手だとすれば制約条件がすごきつく考えやすいので、ここに解があってくれば今日中に提出できる！！と祈るように仮定したら実に一本道でした。そうでない場合を一切全然考えてませんのでズル解きもいいところですね(^\_^)」

はなさかしろう「本問が時間内で解けず、コメントも書けずでスママセン。ヒントを見てようやくで、難しかったです。」

■何はともあれ、無事、締め切りに間に合ったようです。

諏訪冬葉「25玉以降の手順は浮かんだけど最初の王手が難しかった。」

■王手を掛けられに行くとしても初手▲26歩は指し難くかったです。

\*\*\*\*\*

正解：15名

Pontamon NNNさん 小山邦明さん  
RINTAROさん 斧間徳子さん S.Kimuraさん  
山下誠さん 小木敏弘さん 飯山修さん 原岡望さん ほっとさん キリギリスさん リーグ戦ファンさん はなさかしろうさん 諏訪冬葉さん

\*\*\*\*\*

総評

Pontamon「謹賀新年。玉が大移動する作品が3つ。偶数年のパターン化となるのか？次の偶数年は東京五輪・パラリンピックがある2020

年は干支以外にも題材がありそうだけど、さて来年は…。」

■日本での五輪は4回目なので5や4。5×4=20だし2020年も20を示唆。

NNN「久しぶりに解答出します。一部解いてはいましたが。」

RINTARO「ヒント後に1だけでも解いてみるかと考えてたら、4問とも解けていました。易しい出題に感謝。」

■ヒント投入後は解き易くはなりませんが、まだ歯応えは残っているはず。解図力の勝利。

山下誠「新年の推理将棋はいずれも難しく、白旗寸前。解けてみれば素晴らしい問題ばかりでした。」

■解いた時の解後感がたまらない。

小木敏弘「118-4がお手あげでした。118-3がヒントになっていたのか…。」

■ヒントと言うわけではないでしょうが、先手玉が後手陣へ行くために越えなければいけないハードルは同じなので、越し方に多少の違いがあっても参考にはなるでしょう。

Miya「初めて、推理将棋の解答を送らせていただきます。1問だけですが、何とか解けたと思います。難しいけど面白いですね。」

■折角解答いただいた回を最後に休載してましたが、再開しましたのでまた解答をお願いします。

原岡望「詰将棋パラダイスの締切直後で苦戦しましたがヒントに助けられようやく解答。今年もよろしく願いいたします。」

梶彰介「次回は、もう少し解けると良いです。」

ほっと「118-3と118-4が難しくてヒント待ちになってしまいました。」

■ヒントを最大限に活用しましょう。

リーグ戦ファン「第12回くらいから第50回くらいまでの3年ほど毎月参加してましたが、それ以降ずっと間遠になってました。今日ひさびさにサイトを覗きましたら、なんと今日が締め切り！これも運命と思い投稿いたします。今回、私が好きな「玉が詰まされるためにひょこひょこ中段に出て来て手数的にマギレ無し」の形がほとんどだったので、運よく3時間で4作とも回答できました。」

占魚亭「ギリギリに手をつけたので1問だけです（すみません）。本年も宜しくお願いします。」

諏訪冬葉「締め切り過ぎてる…。」

■「セーフ！」だったようです。

\*\*\*\*\*

推理将棋第118回出題全解答者： 18名

Pontamon NNNさん 小山邦明さん

RINTAROさん 斧間徳子さん S.Kimuraさん

山下誠さん 小木敏弘さん Miyaさん 飯山

修さん 原岡望さん 梶彰介さん ほっとさん

キリギリスさん リーグ戦ファンさん はなさ

かしろうさん 占魚亭さん 諏訪冬葉さん

\*\*\*\*\*

推理将棋第119回解説 担当 Pontamon

今回は新担当からの偶数手3作のご挨拶。

第119回 出題2019年8月13日、解答

締切9月10日、解答者19名でした。

多数の解答、ありがとうございます。

\*\*\*\*\*

119-1 初級 Pontamon 作

59馬の棋譜

8手

「これが8手で詰めた時の棋譜だよ」

「珍しい手の59馬があるね」

(条件)

・8手で詰み

・棋譜に59馬があった

\*\*\*\*\*

出題のことば(担当 Pontamon)

59馬ができるのは後手だけ。詰み上がりの

1手は？  
追加ヒント

39の玉を詰めますが、59地点への金の棋譜に注意。

\*\*\*\*\*

推理将棋 1 1 9 - 1 解答

▲48玉、△34歩、▲59金右、△77角成、▲38銀、△59馬、▲39玉、△48金まで8手

(条件)

- ・ 8手で詰み
- ・ 棋譜に59馬（6手目△59馬）があった

詰上り図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
皇	科	將	王	王	將	科	皇		一	
	飛								二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三	
						歩			四	
									五	
									六	
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七	
	角			王	銀	飛			八	
香	桂	銀	金	王		玉	桂	香	九	

持駒 なし

8手詰めだと先手も後手も4手ずつ。59地点へ馬の着手をするのであれば77角成が事前準備として必要な手になります。

後手は、△34歩、△77角成、△59馬の3手が必須ですが、残り1手で詰めるには△77角成の時か△59馬の時に何か駒を入手しておいて、最終手ではその持ち駒を打って詰ますことになります。

4手目の△77角成の時に取れる可能性がある駒は何でしょう。77の歩を取っても攻めには使い道がないので、初手から▲76歩、△34歩、▲77角、△77角成なら角を入手できますし、3手目が▲77桂なら桂を入手できます。どちらにしても△77角成は王手になっています。77の馬を同の手で取ってしまったら後手は攻めることができませんし、68地点で合い駒をしてしまうと6手目に合い駒を取って、玉

が逃げて、最終手を△59馬とするしかないので失敗です。合い駒をしても結局は玉を逃げることになるので、△77角成の時点で玉は逃げます。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
皇	科	將	王	王	將	科	皇		一	
	飛								二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三	
						歩			四	
									五	
		歩							六	
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七	
		金		玉	王	飛			八	
香	桂	銀		王	金	銀	桂	香	九	

持駒 なし

参考1図は、5手目に▲58玉と逃げて、最終手の▲59馬のための紐として6手目に▲48角と打つ手順です。59に利いている先手の金をどかす▲78金を7手目に指していますが、右金を▲38金とする手が間に合わないので詰みにはなりません。5手目に▲48玉と逃げて△59馬とすると▲38玉になって持ち駒の角ではどうすることもできません。持ち駒が桂でも失敗に変わりはありません。

となると駒を入手するのは△59馬の時のようです。4手目に△77角成で王手を掛けていては6手目の△59馬の時に駒を手に入れることはできないので、初手からの手順は、▲76歩以外の何か、△34歩、▲59地点への何か、△77角成、▲何か、△59馬のはずです。後手に渡す駒を先手が5手目に59地点へ指すと△59馬が△同馬になってしまいます。なので、後手に渡す駒を59へ指す手は3手目。3手目に59地点への着手ができるということは初手は59の玉を移動する手になります。

となると、後手へ59地点で渡すことができるのは、金しかありません。△59馬の時に玉が58に居るとその王手の応手は馬を取るしかなくなるので、玉の移動先としての58は失敗になります。つまり、初手は▲48玉が確定します。

3手目の金の着手はどちらの金でしょうか？

参考2図

後手の持駒：歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	科	駒	香	玉	駒	科	香		
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六										
七	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八		角				玉		飛		
九	香	桂	銀		金	金	銀	桂	香	

持駒 なし

参考2図は3手目を▲59金左とした4手目までの局面です。この後、先手が何かを指して6手目は△59馬で金を取りますが、5手目に先手玉を動かしたり玉の移動先を空けても金一枚での詰みがありません。左金を59へ動かす場合は、初手を▲58玉とする手順もありそうです。

▲58玉、△34歩、▲59金左、△77角成、▲69玉、△59馬、▲78玉の後、△77金と打つても桂や角が利いて詰みにはなりません。

ということで、正解は初手▲48玉に3手目を▲59金右とする手順になります。△59馬で王手されるのでその前に逃げ場所を作る5手目▲38銀に△59馬、▲39玉と進み、銀の腹の48地点へ金を打って詰みになります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「担当を引き受けることになってから急遽作った客寄せ用の易問です。」

山下誠「3手目を手順前後すると5九同馬になってしまう。危ないところでした。」

■本作唯一の落とし穴です。

斧間徳子「コンピュータ将棋の棋譜だと59同馬を59馬と記す場合があるので、本作の巧みな条件が通用しなくなる？」

■私がスマホで使っているソフトだと同だけでなく、右、左など全部ないです。「59馬(77)」となっているからkif方式？

神在月生「59馬という棋譜表記にするために59金右を急ぐ。一条件でスッキリ。」

■7手詰29手順は全て1条件にすることができ、8手詰もかなりの数を1条件にすることができると思います。条件が異なれば別作品というのが推理将棋ですので、作図に挑戦されてみてはいかがでしょうか。

RINTARO「3手目と5手目逆だと同馬になるんですね。」

■初手48玉なら、3手目と5手目の手順前後によっては6手目△同馬。

諏訪冬葉「両側に金がいるので最終手▲59馬は無理と予想しました。」

■解説で取り上げましたが、最終手▲59馬は1手間に合いません。

占魚亭「初手38銀の筋を59馬の条件で消したのは上手い。」

■初手38銀なら6手目△同馬が確定。

ほっと「うまく限定されている。」

■この1条件作が過去作品で出ていなかったのが不思議です。

小山邦明「同馬にならないような条件設定でうまく手順が限定できている。」

■手数が短いとコメントする箇所も少なくてもそこが本作の肝なんです。

はなさかしろう「シンプルで好感触。」

■8手ですので条件もシンプルなものが多いです。

S.Kimura 「推理将棋からはしばらく遠ざかっていましたが、後手に協力して駒を渡す筋は覚えていました。」

■推理将棋道とは死ぬこととみつけたり。早く詰むように協力するのが推理将棋。

ミニベロ「これを解くのに30分掛かっている。棋譜上の意味もやっとわかった。解図力落ちたのかなア。」

変寝夢「59同馬はダメであることがしばらくわからず、最初の方は限定されていないのでは、と訝ってしまった」

■ベテランのお二人が共に棋譜条件に引っ掛かるとは！？

飯山修「前例がありそうでないみたいですね」

■そうなんです。これまで出ていない作品みたいなのですが、探し漏れがあるのかな。

原岡望「同馬を拒否している」

■「59同馬があった」を条件にすると「初手は小駒」の条件が必要になります。実はこの条件もいやらしくて、玉は大駒でも小駒でもないところを突いている。

NAO「5手目59金以外の手を探す。選択肢は意外と狭い。」

■3手目に59金を指すと右金でも左金でも5手目にやれることが殆ど無いようです。

米澤歩登「先に銀を上がると同馬になるのか」

■はい、38銀を初手や3手目に指すと5手目が金着手になって同馬になってしまいます。

\*\*\*\*\*

正解：19名

山下誠さん 斧間徳子さん つつじさん 神在月生さん RINTAROさん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん ほっとさん 小山邦明さん 緑衾さん はなさかしろうさん S.Kimuraさん ミニベロさん 変寝夢さん 津久井康雄さん 飯山修さん 原岡望さん NAOさん 米澤歩

登さん

\*\*\*\*\*

## 119-2 中級 Pontamon 作 救急車？ 10手

「隣から『救急車』とか『もうだめだ』の大声が聞こえたから119番するところだったよ」

「一体どうしたんだい」

「隣の住人が将棋を指してみたいで、対戦後の話だと3手目は金だったらいい」

「そうか！救急車は99飛車の聞き間違えだよ。99飛車の手があると10手で詰むからね」

(条件)

・10手で詰み

・3手目は金の着手

・99飛の着手があった

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 Pontamon)

99飛と指した次の手番で先手玉を詰ましましょう。

追加ヒント

6手目に馬で取った飛を8手目に99へ打ちます。3手目の金は右金(49の金)です。

\*\*\*\*\*

推理将棋 119-2 解答 担当 Pontamon

▲78飛 △34歩 ▲48金 △77角成 ▲68銀  
△78馬 ▲98香 △99飛 ▲77桂 △69飛成  
まで10手

(条件)

・10手で詰み

・3手目は金の着手 (3手目▲48金)

・99飛の着手があった (8手目△99飛)

詰上り図

後手の持駒：金歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
二										
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四							歩			
五										
六										
七	歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八	香	角	銀		金					
九			銀	玉		銀	桂	香		

持駒 なし

99 飛の手があるので、先手玉の左側からの攻めが見えます。

99 の飛と玉の間には、桂、銀、金の3枚の駒があるので、ヒント投入前では条件の「3手目は金の着手」は69にある左金を58などへ動かす協力手で、詰み上がりは参考1図のような△79飛成までの一間龍の形を考えた方も居るのではないのでしょうか。

参考1図

上手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八	香	銀			金	銀				
九			銀	玉	金		桂	香		

持駒 なし

3手目の正解は、右金を48へ上がって玉の退路封鎖です。となると、飛は後手に取られる位置へ初手で移動する必要があります。

後手が飛を取る位置は2箇所ありますが、詰み形を考えると78地点で飛を取らせます。

したがって、初手から飛を取らせるまでの手順

は、▲78飛、△34歩、▲48金、△77角成、▲68銀、△78馬。続く手は99を空けて99に飛を打たせる▲98香、△99飛。飛と玉の間には桂と金があるので9手目に▲77桂と跳ねると、78の馬を支えにして△69飛成で金を取って詰みとなります。

先手の着手は、飛を差し出す手、玉の退路塞ぎ、玉の左側にある9段目の駒4枚のうちの3枚を動かす協力手の5手でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「119回狙いで作った作品で、99飛車と言ったのを救急車と聞き間違えたという設定。隣の部屋の声は何となく聞こえた大学時代の安アパートを思い出しました。」

山下誠「3手目が右金を動かす手というのが意表を衝きました。」

■気付きにくいと思ったのでヒントで右金を明かしました。

斧間徳子「3手目が金となると初手に飛車を振るしかないが、88の角にかまうと困窮する。」

■88の角は居座ったまま。△99飛と指すのだから気になります。

神在月生「飛取りはどこで？金はどこに？九段目を通す効率的な手段は？個人的にはどちらかといえば「条件列記だけで出題文章は不要」派ですが、今回の文章は面白かったです。」

■昔は会話に凝ってました。

RINTARO「77桂が絶妙手で、うまくできてますね。」

■先手が▲76歩としていては間に合わないのが最初からこの手は見通せなかったかも。

諏訪冬葉「なぜか「△77角成の王手には3手目までに対応しなければいけない」と勘違いして迷走しました。」



■思い込みや勘違いはあるものですが、3手目が金となると▲68金が浮かんでしまいます。そうしてしまうと88の角の処理も困ってしまふ。

占魚亭「3手目68金に嵌まりました(笑)」

■△77角成の王手の応手が早見えしてしまうと嵌ります。ヒント前に解決されていますが、「3手目の金は右金」のヒントは適切だったようです。

ほっと「99飛は後手の着手に決め打ち。全力で詰みに協力する先手の着手がユーモラス。」

■飛を差し出し、退路を封鎖、王手の応手、99を空けて、桂をよける。この順でなければいけない偶然の賜物。

小山邦明「99飛の着手が、先手か後手かを見極めるのが大切。」

■先手の自力だと、96歩、95歩、96香、97角、98飛、99飛で手数オーバー。

緑衾「銀ではなく金を取ればよかったですね。それなら角をなんとかする必要がないです。」

■角の紐が付いている銀を残すと、いろいろ必要手が増えます。3手目▲68金が見えてしまった口かな。

はなさかしろう「3手目の金が48というのが意外。」

■68金の事前の王手対策の方がピンときてしまいます。

S.Kimura「78で飛車を取って、99飛から飛車を成る形を考えていたら答えが見つかりました。」

■一間龍は角が居て無理そうなので、馬の紐で68飛成が正解でした。

ミニベロ「まるで解けません。10手でこんなこと出来るの？3手目金？初めてのヒント待

ち。

クー、やっと解けた。解いてみると知ってる詰め上がりだ。解図力落ちてるのか、問題が難しいのか。」

■仕事が忙しくて、何も閃かない日もあります。ミニベロさんも3手目▲68金で嵌ったのかも。解答強豪が次々に嵌っていたのなら本問は上級に近かったのかもかもしれません。

変寝夢「ソフトで6手目着手後、後手の持駒に飛あり&3手目金&8手目99飛の指定で600万局面16分でした。『私の脳では、3手目と5手目がわからず撃沈。』」

■約2年前のPCの買い替えの時、Macにしようかと悩みましたが、変寝夢さんのソフトは今では公開されていないようなので諦めました。

飯山修「自分の飛が99へ行くのは不可能とすぐ判るがまず確かめる疑り精神が身につけてしまった」

■「この作品には余詰がある」という前提でいろいろ確かめるのも楽しみ方。

NAO「99飛を効率よく攻めに参加させる。飛の効きを通す香と桂の協力手が滑稽。」

■救急車が接近して来たら道を譲らなければいけません、速度は落とさなくていいんです。

米澤歩登「救急車ですか。面白い事を考えますね。」

■当時は解答者&作者だったので、119回での採用を目指して、119回・119番・救急車・99飛車という連想でした。

\*\*\*\*\*

正解：18名

山下誠さん 斧間徳子さん つつじさん 神在月生さん RINTAROさん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん ほっとさん 小山邦明さん 緑衾さん はなさかしろうさん S.Kimuraさん ミニベロさん 津久井康雄さん 飯山修さん 原岡望さん NAOさん 米澤歩登さん

\*\*\*\*\*

119-3 上級 Pontamon 作  
8マス移動で詰み 12手

「駒成なく、12手目の8マス移動の手で詰んだよ」

「へえ、どんな将棋だったの？」

「端の筋以外へ駒を打つ手があったよ」

(条件)

- ・12手目の8マス移動の手で詰み
- ・端の筋以外へ駒を打つ手があった
- ・駒成なし

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 Pontamon)

8マス移動の駒種と詰み形を推理しましょう。

追加ヒント

8マス移動は飛。駒打ちは角ですが、48地点の駒をピンする形ではありません。

\*\*\*\*\*

推理将棋 1 1 9-3 解答 担当 Pontamon

▲76歩、△32飛、▲33角不成、△42銀、▲22角不成、△37飛不成、▲31角打、△同飛不成、▲56歩、△57角、▲58金右、△39飛不成 まで12手

(条件)

- ・12手目の8マス移動(8手目△31同飛不成、12手目△39飛不成)の手で詰み
- ・端の筋以外へ駒を打つ手があった(7手目▲31角打、10手目△57角)
- ・駒成なし

詰上り図

後手の持駒：銀歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	王	王		科	皇	一	
					駒	角		二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三	
								四	
								五	
		歩		歩				六	
歩	歩		歩	駒	歩		歩	七	
				金			飛	八	
香	桂	銀	金	玉		駒	桂	香	九

持駒 歩

8マス移動が可能なのは、飛・角・香ですが、

駒成なしの条件なので香は除外できます。

角の8マス移動は隅から隅への斜め8マス移動になりますが、不成なのでその手で王手はできません。なぜなら隅の生角で王手なのであれば玉は対角線上にいないはず、移動前の隅でも王手のはずです。

つまり、最終手の駒は飛です。

9段目への飛の着手で詰むなら思い浮かぶのははてるま手筋。しかし本問では駒成なしなので玉の退路が出来てしまいます。

参考1図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	王	王		科	皇	一	
					駒	駒		二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	三	
								四	
								五	
			歩				駒	六	
歩	歩		歩	歩	歩		歩	七	
				金	金	銀	飛	八	
香	桂	銀		玉		駒	桂	香	九

持駒 歩

思い浮かぶ詰み形は参考1図のように、玉の退路になる48地点を駒で埋め、その駒を動けないようにピンする形です。後手の飛が出ていくための鉄板手順の▲76歩、△32飛、▲33角不成を角か飛で取る手順ですが、ゆくゆくは48駒をピンするために、4手目△33同角と取って、その後△15角とする手順が見えますが、条件では駒を打つ手が必要とのこと。ならば、4手目を△33同飛で角を取り、その角を打てばいいことに気付きます。でも、駒打ちは端の筋はダメとのことなので△26角にすれば良い。後手角の移動手順の除外と角の打ち場所限定のための条件を見破ったり！

本当にそうでしょうか？参考1図で先後の手数を数えてみます。先手は、▲76歩、▲33角不成、▲48銀、▲58金右、▲68金上の5手なので1手の余裕がありOK。ところが後手は、飛の着手だけで△32飛、△33同飛、△37

飛不成、△31 飛不成、△39 飛不成で5手を要します。8マス移動のためにスタート地点を空けるための△42 銀と 48 の銀をピンするための△26 角が必要なので後手は1手足りません。

後手の着手を減らす工夫として、▲33 角不成を即取るのではなく、その王手を渡りに船でゆくゆく必要になる△42 銀とする手順があります。△33 飛が無い分1手短縮できますが、駒打ちするための角の入手ができていませんので、5手目▲22 角不成のあとに▲31 角不成として、8マス移動のスタート位置に戻ってくる△31 飛不成で角を入手することができます。

参考2図

後手の持駒：歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	駒	王	王	駒		科	皇	
二						駒				
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩					駒		
七	歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	
八				金	銀		飛			
九	香	桂	銀	金	玉		駒	桂	香	

持駒 角歩

参考2図はこの手筋で12手目まで指してみたものです。

▲76 歩、△32 飛、▲33 角不成、△42 銀、▲22 角不成、△37 飛不成、▲31 角不成、△同飛不成、▲58 金右、△26 角、▲48 銀、△39 飛不成 まで12手

68 の退路が残っていますし、持ち駒に角があるので▲49 角で合い駒も可能です。

3手戻した▲58 金右までの局面を思い浮かべてください。合い駒にできる角を持っていますが、これは22の角を▲31 角不成で移動して後手に進呈したのですが、そこで▲31 角打で持ち駒の角を手放せば合い駒としては残りません。そうした時、後手の退路は48と68の2箇所に残っている手数は3手戻したので3手で内訳は後手の2手（最終手含む）と先手の1

手。つまり、先手と後手の1手ずつで玉の退路2地点の措置をしなければいけません。

48 地点はピンされなくても、後ろに動けない香や桂があればそれらの駒で玉の退路を塞ぐことができますが香や桂を入手する暇がありません。もし、桂の持ち駒が後手だったら、△56 桂の1手で48と68をカバーでき、先手は1手余ります。

無いものねだりをしては仕方ないので、持っている角を活用するしかありません。先手の協力手の▲56 歩によって角の打ち場所を提供し、△57 角で48と68地点を制圧することができました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「上谷直希作の102-2からの派生作。駒成なしにしても2手増でおさまりました。」

山下誠「5七角の手が浮かばず、堂々巡りをしてしまいました。」

■桂があれば48と68地点をカバーできると気付けば代替案の57角はすぐそこ。駒を打つのが1回だと勘違いすると57角が浮かばないかも。

斧間徳子「基本的なはてるま8手詰を4手延長。4手も延長すると煩雑になりそうだが、少ない条件でスッキリとまとめているのは流石。31角打や56歩、57角がすべて限定されているのが痛快。」

■作図の際、先手の持ち駒に角が残るので困ってました。▲31角打に気付くのに時間がかかったこと。(笑)

神在月生「まず中段の横運動に山をかけたが、手数超過&非限定ばかりでハズレ。3筋の縦運動は非限定がありそうに感じたが、57角とその角を縦運動中に31で得て一手節減できることを発見し解消。しかし最初は31角生としてしまい、あれっ？。31角打は妙手・好手というよりも面白い手といった感触の好感度が高い

手。」

■紛れ筋一通りを検討されたようですが、それにも関わらず出題翌日の解答とは恐れ入りました。

RINTARO「3手目までは決め打ちで4手目同飛から端玉を1筋から9筋に飛を回る手で詰ます筋を考えました。次に39飛不成で詰ます筋を考えました。4手目同飛の呪縛から解放されたときに解けました。42銀が効率のいい手ですね。」

■4手目42銀は、8マス移動で詰みの102-2でも出ていた手筋でした。

諏訪冬葉「成る手がないなら最終手は飛車。とすると102-2の手順だが、生飛車なので48をふさぐ必要がある。で、この解答なのですが「端の筋以外へ駒を打つ手があった」の「端の筋」が全然絡んでないので不安です。」

■この1～2年、必須ではない条件も追加することを考えています。たとえば「初手は歩」。3手目に飛を振ったり、玉が中段へ向かう場合には初手と3手目で手順前後があるのでこのような条件が必須になりますが、「初手は歩」が必ずしも必要ではない作意順にこの条件を入れておくと、解図の際に明後日の方へ向かったり、解図できても不安が残ったり。

占魚亭「ちょっと自信ないですが。角を持駒にする手立てが考え所でした。」

■5手目に▲66角生、△同角、▲56歩、△57角打、▲58金右、△37飛生なら次の後手番で△39飛生で詰みですが、8マス移動ではないので失敗。後手が角を持駒にするには先に先手が持駒にしてから渡す必要があり、遠回りしているようで不安だったのででしょうか。

ほっと「後手の8マス移動ならやはり3筋の飛。しかし「端の筋以外へ駒を打つ手あり」の条件がどこに利いているのか判らなかった。」

■締め切り前ヒントの通り、解図の際、角打ちで48の駒をピンする手筋を考えるだろうと思っていたのです。結局、△26角と打つ筋での詰みはないのですが…。

小山邦明「7手目の31角打が先手の合駒をなくす巧手だと思いました。」

■▲31角打と△57角が先後の肝。

緑衾「いいですねこれ。シンプルな条件の中にギリギリで駄目な筋がたくさん詰まっています。ようやく解けたと思ったら角合されました。それから、端への駒打ち禁止の意味が分かりません。」

■初解答でヒント前に全問正解とは強豪解答者とお見受けしました。

はなさかしろう「最終手の飛は横か縦か。第一感は横だったので抜け出すのに時間を要しました。」

■解図を楽しまれたようですね。

S.Kimura「飛車を1筋から9筋（もしくはその逆）に移動すること考えていましたが、うまくいきませんでした。最終的にたどり着いたのは、はてるま手筋（これも覚えていました）の応用で、31から39へ行く形でした。2回目の駒打ちは48に利きがあるけど、ヒントと違う？」

■角の利きと玉の間にある駒が動けない（ビンされている）、つまり端の手は無いので26角で48の駒をピンする角打ちではないというのがヒントでした。

ミニベロ「これも景色が全く見えない。そもそも「合駒なし詰」に、3手目駒を持たせる発想が凄い。各タイミングも絶妙。119回に99飛車。こんなシャレにも今頃気づくとは。解図力落ちました。」

■角の受け渡しが忙しい。119番の救急車は119回の採用狙いで2年前に作ったもの。手順を覚えていなくて、こちらは記憶力が落ちました。

飯山修「33角の王手の移動合が非限定になるのがイヤでどうしても同飛と取ってしまい31を空ける手段に苦勞する。そして3筋ではないのかと他の筋を探す情けないパターン。」

■解答の最終手だけが「39 飛」で「生」の記載がありませんでしたが、単に書き忘れと判断して正解とさせていただきます。

原岡望「横 8 マスと即断し大苦戦。ヒントに助けられた。」

■ヒントに助けられたということは、26 角で 48 の銀をピンする手順も読んでいたようですね。

NAO「8 路移動の発射台 31 地点で角を取らせる。57 角が入りまとまった。」

■うっかり 22 の角を移動して 31 で取らせると合い駒が残って失敗。

\*\*\*\*\*

正解：17 名

山下誠さん 斧間徳子さん つつじさん 神在月生さん RINTARO さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん ほっとさん 小山邦明さん 緑衾さん はなさかしろうさん S.Kimura さん ミニベロさん 津久井康雄さん 飯山修さん 原岡望さん NAO さん

\*\*\*\*\*

総評

山下誠「推理将棋の再開は嬉しい限り。楽しい問題を期待しております。」

■楽しい問題を選題できるのだと思いきや在庫が…。

斧間徳子「この推理将棋のコーナー、解答を募集しておいてそのまま何の説明もないまま 1 年半も音沙汰無しだったのは正直不愉快でしたが、何はともあれ気鋭の Pontamon さんが後任となって復活したことは喜ばしいことです！」

■年賀推理以外の通常問題の投稿を期待しています。よろしくお願いします。

神在月生「今回はウォーミングアップということで、次回から難度が上がるかもしれないが、第一問のような客寄せは必要だと思います。あと、担当者出題分には、素敵な一条件作を期待

しております。」

■120 回の問題の構成を変更して易し目にしました。一条件作とはハードルが高いです。(笑)

RINTARO「久しぶりに推理将棋を解きましたが、楽しかったです。」

占魚亭「担当就任、おめでとうございます。コーナーの再開を待っていました。推理将棋脳が衰えていますが、回復できるよう頑張りますのでよろしくお願いします。」

■RINTARO さん、占魚亭さん、解答常連者の参加はコーナー継続の後押しになります。よろしくお願いします。

ほっと「祝、再開！ところで在庫状況はどうなんでしょうか。」

■120 回の新旧担当特集で拙作以外で 2 作出題しましたので担当作以外の在庫数は片手で間に合います。

小山邦明「推理将棋の再開ありがとうございます。Pontamon さんは推理将棋作品を多数発表されている方なので解説も楽しみにしています。」

■既に 4 回分の結果稿を書きましたが、グダグダと長いだけです。

緑衾「初めての解答です。」

■末永くお付き合いいただければと思います。

はなさかしろう「新装開店おめでとうございます。襲名披露に相応しく、今回いずれも好条件の問題で楽しかったです。最近解けないことも多くなってきましたが、少しずつでも参加させていただこうと思います。よろしくお願いします。」

■11 手以下の初中級作品の投稿を期待しています。よろしくお願いします。

S.Kimura「推理将棋の復活を歓迎いたします。新担当の Pontamon さんには、無理はな

さらず、長く続けていっていただくことを願っています。それにしても、2年前の問題の結果が公開され、その当時の自分の短評をもう一度読むことになりましたが、覚えていないものが意外と多いですね。今回は、私にしては珍しくヒントなしで全問解けましたが、これを書いている時点で、既にヒントが公開されていました。」

■夜更かしはできなくなったし、記憶力も怪しい。自作は3ヶ月もすれば手順を忘れています。2年前に作った中級の「救急車？」は99飛車のダジャレだということだけは覚えてました。(笑)

ミニベロ「推理将棋再開おめでとうございます。解図力落ちましたが、全問正解めざして頑張ります(涙)。」

■しばらくは余詰みを出さないように易問を出題しようと思います。ベテランは頑張ることなく全問正解で行けるでしょう。

変寝夢「推理将棋コーナーが再開ということで、毎月の楽しみがまた一つ増えました。こちらの人間の脳が頼りないので、ソフトの力も使いながら格闘しようか思っています。」

■機械検証できる環境が欲しいです。

津久井康雄「9/5に1題だけ解答送付しましたが、残り2題について、追加ヒントを見て答えが見つかったように思いますので、再提出します。よろしくどうぞ。」

■おもちゃ箱ならではのヒント投入がありますので、活用してください。

飯山修「復活はうれしいですが、解けずに悩む日々がまた戻ってくる事を考えると恐ろしい。」

■出題中の120回は問題の構成を変更して易し目にしました。

原岡望「復活歓迎。今回は青息吐息。メ切日解答とは情けない。」

■詰パラの締め切りと近いので、早めに解図に取り掛かりましょう。

NAO「前担当のNAOです。推理将棋コーナーを再開いただきありがとうございます。」

Pontamonさんには感謝の言葉しかありません。新担当のPontamonさんの3作品、いずれも狙いがわかりやすく初回向けにぴったり。担当のときに投稿いただいた作品も含んでいますが、改めて解き直しています。解答を送るのは5年ぶりになりますが、解けて楽しい感触が蘇りました。これからは微力ながら解答と投稿で応援したいと思います。

みなさまへ>11手以下の初中級問題のご投稿をよろしく願いいたします。」

■事ある毎に書きますが、皆様の投稿をお願いします。既存作を異条件で作図するのがいいかも。

米澤歩登「二問の解答です。」

■一問の解答でも、コメントだけでも結構ですのでよろしくお願いします。

\*\*\*\*\*  
推理将棋第119回出題全解答者： 19名

山下誠さん 斧間徳子さん つつじさん 神在月生さん RINTAROさん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん ほっとさん 小山邦明さん 緑衾さん はなさかしろうさん S.Kimuraさん ミニベロさん 変寝夢さん 津久井康雄さん 飯山修さん 原岡望さん NAOさん 米澤歩登さん

\*\*\*\*\*

<余談>

初めて参加した詰将棋全国大会は第26回の静岡大会(2000年)。『神話大全』を出版した直後でもあったのだが、会場が自宅から近かったのが一番の理由。その後も第18回@府中(2002年)、第22回@横浜(2006年)、第30回@川崎(2014年)と、比較的近場である関東地区開催の大会だけ参加してきた。

今年になって初めて関西地区開催の第35回@大阪(2019年)に参加した。大阪に拠点できた(娘が大阪で就職した)のが大きくて、娘のところに前泊して余裕で大会に乗り込めた。おそらく『TAROTRAILS』を配布するという目的だけではその気にはならなかったと思う。

大阪大会では様々な人と話ができて刺激を受けた。それが、これまでの詰将棋関連に留まらない様々な経験と相まって妄想企画「伝承」を生むことになった。そして今現在はその妄想を現実のものとするべく種々画策しているところである。

妄想が実現した暁には全国大会でお披露目するというのも妄想している。来年の福岡大会にも参加予定で、ここでも広島(息子が広島で就職)を活用予定。妄想には続きがあり、再来年の中部地区の全国大会も射程に入れている。どういう妄想かはおいおいここで紹介していこうと思う。

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【自玉詰】

攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【スタイルメイト】

王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

【点鏡】

55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

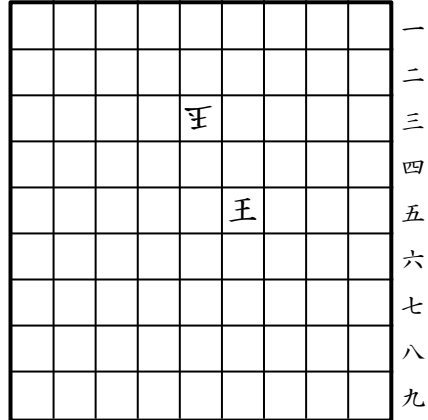
【補足】

行き所のない駒の禁則は適用されない。

<問題>

【2-1】

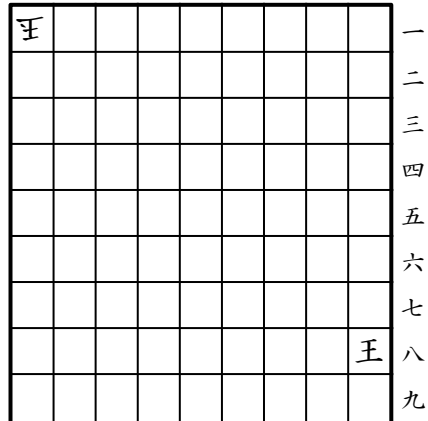
点鏡協力自玉スタイルメイト 4手  
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 香

【2-2】

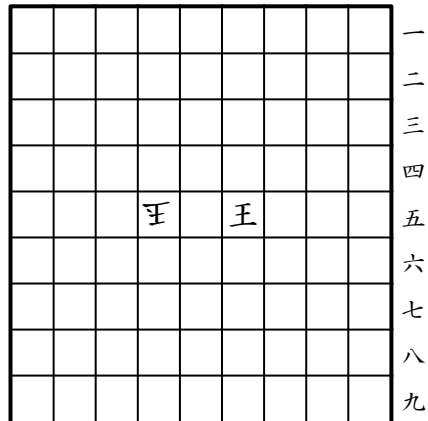
点鏡協力自玉スタイルメイト 4手  
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛

【2-3】

点鏡協力自玉詰 6手  
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 金



## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

### 2019年11月10日(日)

#### 推理将棋第121回出題

推理将棋 3題

### 2019年11月15日(金)

#### 第115回WFP作品展

フェアリー作品 8題

最短手数探索(推理将棋) 1題

## 作品募集締切一覧

### Fairy of the Forest #61

課題：自由課題の協力詰

投稿締切：2019年11月15日(金)

(投稿先)

→酒井博久(sakai8kyuu@hotmail.com)

※詳細は本号のWFP135号P47をご覧ください



## 【あとがき】

詰パラ9月号で募集された「透明駒10周年記念 創作コンクール」投稿締切は9月末でしたが、開催がいつなのかは不明(11月かな)ですが楽しみなコンクールです。WFP以外でフェアリーのコンクールというのはとても珍しい事だと思います。

透明駒は私とても苦手です。これまでの出題作の正解率は多分50%いかないと思います。論理的なものはどうも苦手(笑)です。ルールを理解もかなり怪しい。たとえば今月発表の114-7の上谷作。

結局解けませんでした。私が考えたのは、初手55飛と透明駒(角)を取る。そして透明駒がそれを取る。3手目取った透明駒(角)を打つ、24飛(3手目は33角か42角か51角)、同角成迄5手。まあ最後24玉として24で飛を取った手が不成を証明されて不詰でこの後35飛で詰んだと思ったけど2手目の透明駒が飛の可能性がありダメでした。

4手目24飛と打った時点で3手目は角打ちと判明しているわけで24に行く時点で協力詰なので成れるんじゃないの(成りを主張出来るんじゃないの)とか素人判断で考えちゃんですよ。(ちゃんと間違いだとは気付いてますよ)

協力詰は先後協力して詰ますんだから5手目で「詰みました」と言えってゆうんだ~(笑)

前述したコンクールは10作程度出題予定との事です。若島さんがジャッジということで結構注目される催しになると思います。私もボケた頭を振り絞って1題でも多く正解を入れたと思っております。

たくぼん

2019年 第136号

### Web Fairy Paradise

非売品

令和元年十月号

令和元年十月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合せ先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp